

高松市の環境に関する
市民・事業者アンケート調査結果報告書

令和 5 年 3 月

高 松 市

目 次

1. 調査の目的と概要.....	1
1-1. 調査の目的.....	1
1-2. 調査の項目.....	1
1-3. 調査の対象.....	2
1-4. 調査の実施方法.....	2
2. 市民アンケート調査結果.....	3
2-1. 属性.....	3
2-2. 環境についての関心度.....	5
2-3. 環境に対する改善度、満足度.....	7
2-4. 市の取り組みについて.....	13
2-5. 環境保全に関する取り組み.....	15
2-6. 高松市の将来像.....	17
3. 事業者アンケート調査結果.....	27
3-1. 属性.....	27
3-2. 環境保全に関する取り組み.....	29
3-3. 市の取り組みについて.....	36
4. アンケート調査結果のまとめ.....	41
4-1. 市民アンケート調査結果のまとめ.....	41
4-2. 事業者アンケート調査結果のまとめ.....	42

1. 調査の目的と概要

1-1. 調査の目的

本調査は、平成 28 年 3 月に策定した高松市環境基本計画（平成 28 年度～令和 5 年度）の計画期間終了にともない、次期環境基本計画を策定するにあたって、市民の皆様や事業者の方々が日ごろ環境全般について感じていること、市の環境行政に対する意見・要望についてお聞かせいただき、今後の運営及び次期環境基本計画の策定に反映させることを目的として実施したものです。

1-2. 調査の項目

本調査の項目は以下のとおりです。

(1) 市民アンケート

アンケート項目	設問の内容
問1～問2 属性	年齢、居住年数
問3 環境についての関心度	各環境分野の項目別の関心度
問4 環境に対する改善度・満足度	居住地区を中心とした環境の改善度・満足度
問5 市の取り組みについて	より良い環境づくりのために市が取り組むべき施策
問6 環境保全に関する取り組み	日常における取組状況及び環境保全活動への参加意向
問7 高松市の環境の将来像	環境面からのまちづくりの方向性 将来の高松市のイメージ（自由記述）

(2) 事業者アンケート

アンケート項目	設問の内容
問1～問3 属性	従業員数、業種、設立年
問4～問8 環境保全に関する取り組み	環境関連部署の設置状況 ISO14001等の認証取得状況 環境保全に向けた行動の取組状況 環境対策に取り組むことへの認識 環境対策に取り組む動機
問9～問12 市の取り組みについて	より良い環境づくりのために市が取り組むべき施策 「2050年カーボンニュートラル」「高松市ゼロカーボンシティ」の認知度 ゼロカーボンシティ実現のために市が取り組むべき施策

1-3. 調査の対象

(1) 市民アンケート

住民基本台帳をもとに、無作為に抽出した 18 歳以上の市民 1,000 人

(2) 事業者アンケート

無作為に抽出した高松市内の 300 事業所

1-4. 調査の実施方法

【実施期間】 令和 4 年 9 月 30 日（金）～令和 4 年 10 月 14 日（金）

【配布方法】 郵送

【回収方法】 郵送もしくはインターネット

	送付数	回収数	回収率
市民	1,000	311 郵送 207/インターネット 104	31.1%
事業者	300	150 郵送 61/インターネット 89	50.0%

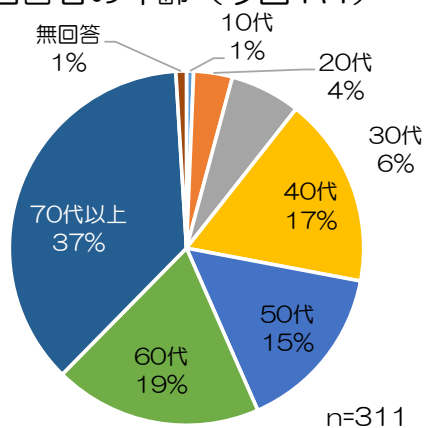
2. 市民アンケート調査結果

2-1. 属性

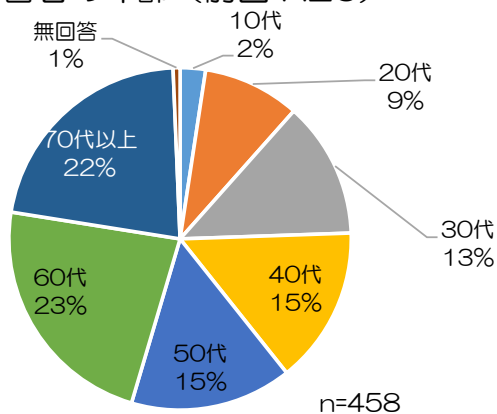
【問1】回答者の年齢

項目	回答数	
	今回 R4	前回 H26
10代	2	11
20代	11	42
30代	20	59
40代	54	68
50代	48	70
60代	59	105
70代以上	114	100
無回答	3	3
合計	311	458

回答者の年齢（今回 R4）

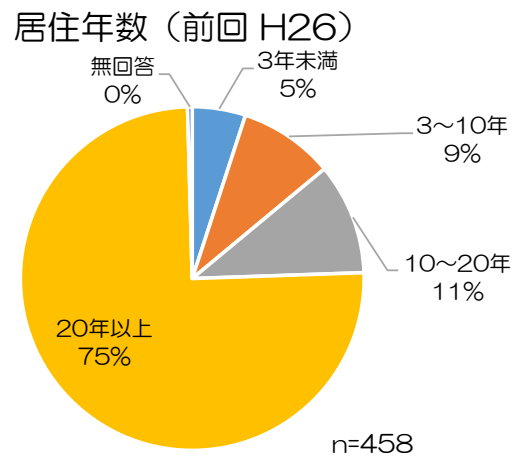
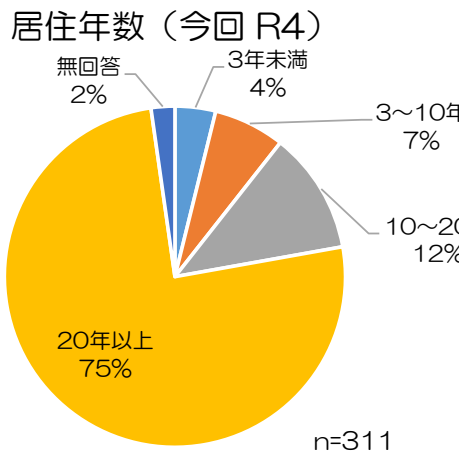


回答者の年齢（前回 H26）



【問2】居住年数

項目	回答数	
	今回 R4	前回 H26
3年未満	12	23
3年以上 10年未満	21	41
10年以上 20年未満	36	48
20年以上	235	344
無回答	7	2
合計	311	458



2-2. 環境についての関心度

【問3】 次の環境項目について、どれくらい関心がありますか。

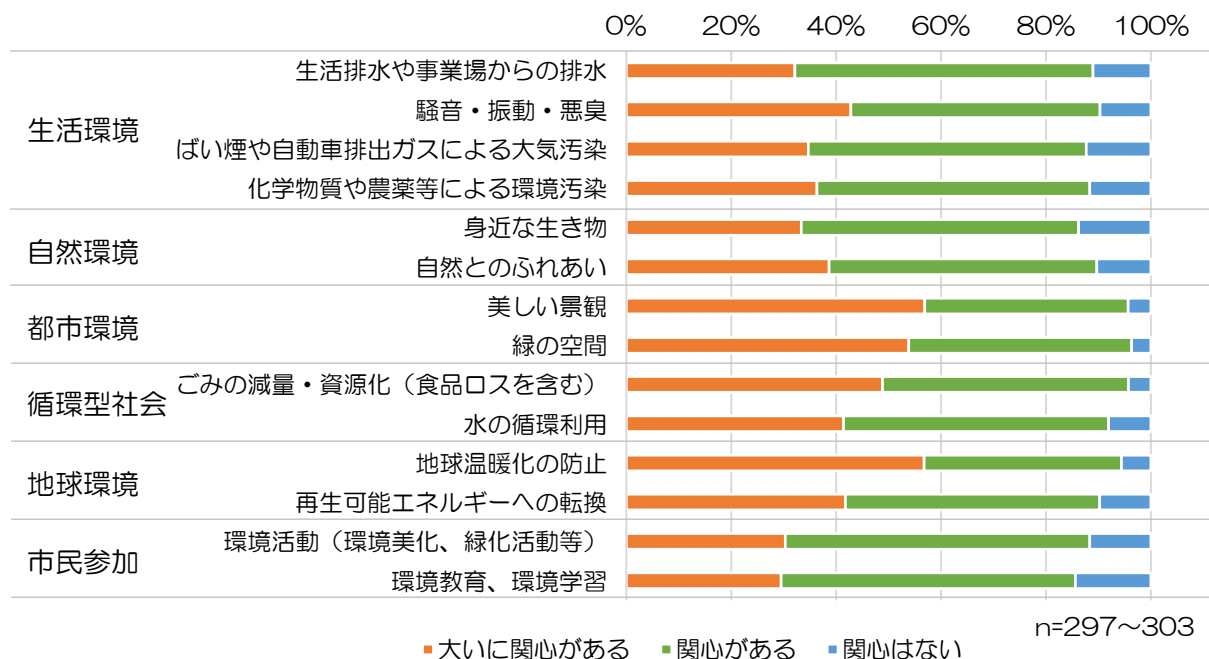
あなたの考えに最も近い番号を1つ選んで、○をつけてください。

- 1 大いに関心がある
- 2 関心がある
- 3 関心はない

すべての項目において、関心度（「大いに関心がある」と「関心がある」と回答した人の割合）が80%を超えており、環境について高い関心があることがうかがえます。特に「美しい景観」「緑の空間」などの都市環境に強い関心が持たれています。

また、「ごみの減量・資源化（食品ロスを含む）」や、地球規模で対策が求められている「地球温暖化の防止」なども高い関心を持たれています。

環境についての関心度



前回（平成 26 年度）の結果と比較すると、環境についての関心度の高さや全体的な傾向は大きくは変わりませんが、循環型社会や市民参加に関する項目については関心度が上昇している一方で、生活環境や自然環境はやや関心度が低下する結果となっています。

区分	項目	大いに関心がある	関心がある	関心はない	合計	関心度 (%) ※		
						今回 (R4)	前回 (H26)	前回との差
生活環境	生活排水や事業場からの排水	96	170	33	299	89.0	89.3	-0.3
	騒音・振動・悪臭	128	142	29	299	90.3	94.3	-4.0
	ばい煙や自動車排出ガスによる大気汚染	104	159	37	300	87.7	93.2	-5.5
	化学物質や農薬等による環境汚染	109	156	35	300	88.3	90.2	-1.9
自然環境	身近な生き物	99	157	41	297	86.2	89.3	-3.1
	自然とのふれあい	116	153	31	300	89.7	92.2	-2.5
都市環境	美しい景観	170	116	13	299	95.7	95.2	0.5
	緑の空間	161	127	11	299	96.3	96.2	0.1
循環型社会	ごみの減量・資源化（食品ロスを含む）	148	142	13	303	95.7	94.4	1.3
	水の循環利用	123	150	24	297	91.9	89.6	2.3
地球環境	地球温暖化の防止	172	114	17	303	94.4	93.9	0.5
	再生可能エネルギーへの転換	124	144	29	297	90.2	89.3	0.9
市民参加	環境活動（環境美化、緑化活動等）	91	174	35	300	88.3	85.5	2.8
	環境教育、環境学習	88	167	43	298	85.6	80.2	5.4

※「大いに関心がある」と「関心がある」と回答した人の割合

年代別の関心度を色分けした結果は次の表のとおりです。50 代以上では全体的に関心度が高くなっていますが、20～40 代では、関心度が低い項目が見られます。特に 20 代では生活環境、市民参加に関する項目について関心度が低い結果となっています。

区分	項目	関心度 (%) ※							
		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
生活環境	生活排水や事業場からの排水	100.0	54.5	90.0	83.3	87.2	98.3	89.5	100.0
	騒音・振動・悪臭	100.0	72.7	95.0	90.7	91.5	94.9	87.6	50.0
	ばい煙や自動車排出ガスによる大気汚染	100.0	72.7	75.0	90.7	93.6	89.8	86.7	50.0
	化学物質や農薬等による環境汚染	100.0	72.7	80.0	85.2	89.4	94.9	89.5	50.0
自然環境	身近な生き物	100.0	72.7	75.0	83.3	91.5	79.7	90.5	50.0
	自然とのふれあい	100.0	100.0	90.0	79.6	93.6	84.7	95.2	50.0
都市環境	美しい景観	100.0	81.8	100.0	92.6	100	93.2	97.1	50.0
	緑の空間	100.0	90.9	100.0	96.3	97.9	93.2	97.1	50.0
循環型社会	ごみの減量・資源化（食品ロスを含む）	50.0	90.9	100.0	94.4	91.5	96.6	101.0	100.0
	水の循環利用	0.0	81.8	95.0	87.0	95.7	94.9	90.5	100.0
地球環境	地球温暖化の防止	100.0	81.8	90.0	96.3	93.6	93.2	99.0	100.0
	再生可能エネルギーへの転換	50.0	81.8	80.0	92.6	87.2	91.5	91.4	50.0
市民参加	環境活動（環境美化、緑化活動等）	100.0	63.6	95.0	85.2	87.2	89.8	91.4	50.0
	環境教育、環境学習	100.0	72.7	90.0	79.6	80.9	84.7	90.5	50.0
回答数		2	11	20	54	47	59	105	2

※「大いに関心がある」と「関心がある」と回答した人の割合

※「10代」と「無回答」は回答数が2件と少ないため、色分け表示から除外

※赤色…非常に高い（90%以上）、黄色…高い（80～90%）、緑色…普通（60～80%）、青色…低い（60%以下）

2-3. 環境に対する改善度、満足度

【問4】お住まいの地区を中心とした環境について、高松市が環境基本計画を策定した平成27年（2015年）頃から変化したと思いますか。また、現在はどの程度満足していますか。「改善度」と「満足度」それぞれについて、1～3の中から1つ選んで、その番号に○をつけてください。

（改善度）

- 1 良くなった
- 2 変わらない
- 3 悪くなった

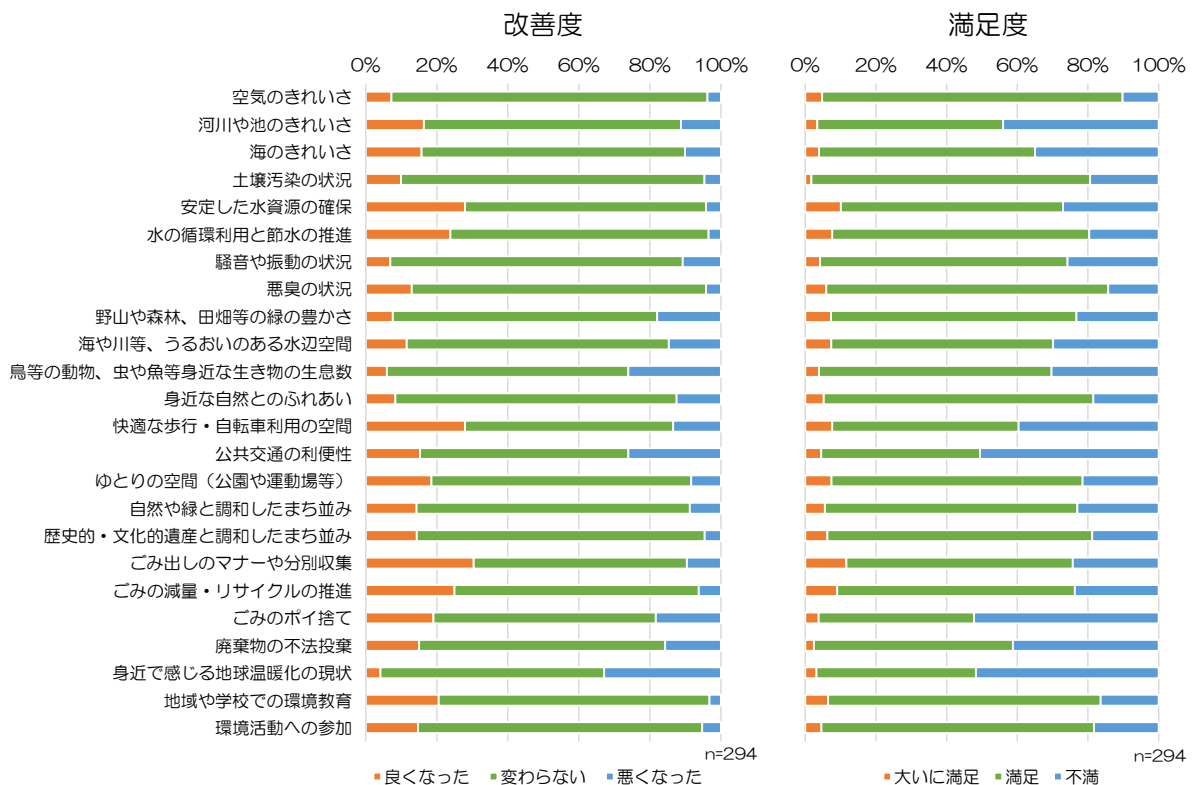
（満足度）

- 1 大いに満足
- 2 満足
- 3 不満

「空気のきれいさ」「悪臭の状況」「身近な自然とのふれあい」「地域や学校での環境教育」は、改善度・満足度ともに高くなっています。

一方で、「河川や池のきれいさ」「快適な歩行・自転車利用の空間」「ごみのポイ捨て」「廃棄物の不法投棄」は改善が進んでいるものの、満足度としては低い状態です。

さらに、「公共交通の利便性」「身近で感じる地球温暖化の現状」は改善度・満足度ともに低い状態であり、今後、改善が望まれる項目となっています。



下図は、改善度及び満足度を点数化し、相関関係をグラフ化したものです（点数化の方法は、次のページに記載）。

✓改善度・満足度が高い項目…「23 地域や学校での環境教育」

「6 水の循環利用と節水の推進」など

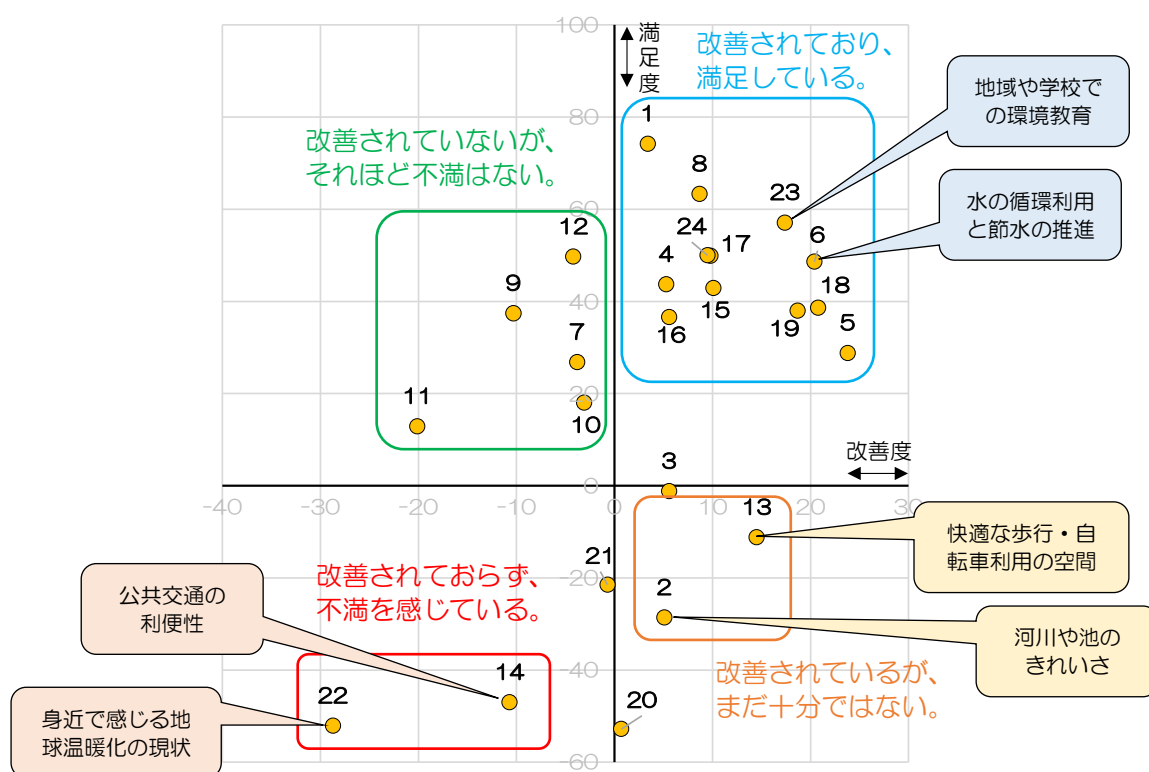
✓改善度は高いが、満足度が低い項目…「2 河川や池のきれいさ」

「13 快適な歩行・自転車利用の空間」

✓改善度・満足度が低い項目…「22 身近で感じる地球温暖化の現状」

（今後、特に改善が必要） 「14 公共交通の利便性」

改善度・満足度評価散布図



項目一覧表

1	空気のきれいさ	13	快適な歩行・自転車利用の空間
2	河川や池のきれいさ	14	公共交通の利便性
3	海のきれいさ	15	ゆとりの空間（公園や運動場など）
4	土壌汚染の状況	16	自然や緑と調和したまち並み
5	安定した水資源の確保	17	歴史的・文化的遺産と調和したまち並み
6	水の循環利用と節水の推進	18	ごみ出しのマナーや分別収集
7	騒音や振動の状況	19	ごみの減量・リサイクルの推進
8	悪臭の状況	20	ごみのポイ捨て
9	野山や森林、田畑などの緑の豊かさ	21	廃棄物の不法投棄
10	海や川など、うるおいのある水辺空間	22	身近で感じる地球温暖化の現状
11	鳥などの動物、虫や魚など身近な生き物の生息数	23	地域や学校での環境教育
12	身近な自然とのふれあい	24	環境活動への参加

<点数化の方法>

改善度は、良くなった〈+1〉点、変わらない〈0〉点、悪くなった〈-1〉点、満足度は、大いに満足〈+2〉点、満足〈+1〉点、不満〈-2〉点として、これに各回答の割合を乗じて点数化しました。当該項目の合計値が改善度または満足度の点数となります。

(改善度の計算例)

$$\begin{aligned} & \text{良くなったと回答した人の割合 } 60\% \times +1 \text{ 点} = 60 \text{ 点} \\ & \text{変わらないと回答した人の割合 } 10\% \times 0 \text{ 点} = 0 \text{ 点} \\ & \text{悪くなったと回答した人の割合 } 20\% \times -1 \text{ 点} = -20 \text{ 点} \\ & \hline & \text{合計} = 40 \text{ 点} \end{aligned}$$

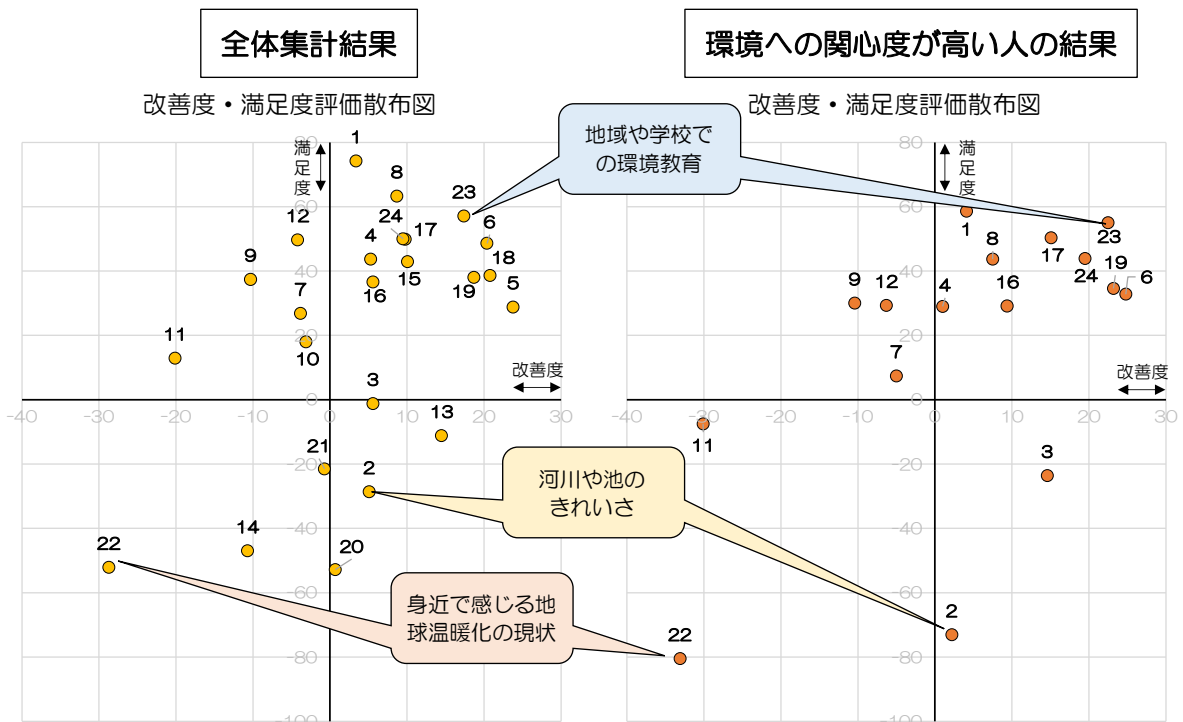
また、問3の各項目において、「大いに関心がある」と回答した人を抽出し、環境への関心度が高い人たちが環境に対する改善度・満足度をどのように感じているかを分析するため、問3と問4の項目を次の表のように整理し、改善度と満足度をそれぞれ点数化しました。点数化の方法は、全体集計と同様に上記の方法を用いることとします。

【問3】関心度を問う設問		【問4】改善度・満足度を問う設問
区分	項目	項目（問3の項目に対応するもの）
生活環境	生活排水や事業場からの排水	2 河川や池のきれいさ
		3 海のきれいさ
	騒音・振動・悪臭	7 騒音や振動の状況
		8 悪臭の状況
ばい煙や自動車排出ガスによる大気汚染	1 空気のきれいさ	
	化学物質や農薬等による環境汚染	4 土壌汚染の状況
自然環境	身近な生き物	11 鳥等の動物、虫や魚等身近な生き物の生息数
	自然とのふれあい	12 身近な自然とのふれあい
都市環境	美しい景観	16 自然や緑と調和したまち並み
		17 歴史的・文化的遺産と調和したまち並み
	緑の空間	9 野山や森林、田畑等の緑の豊かさ
循環型社会	ごみの減量・資源化（食品ロスを含む）	19 ごみの減量・リサイクルの推進
	水の循環利用	6 水の循環利用と節水の推進
地球環境	地球温暖化の防止	22 身近で感じる地球温暖化の現状
	再生可能エネルギーへの転換	—
市民参加	環境活動（環境美化、緑化活動等）	24 環境活動への参加
	環境教育、環境学習	23 地域や学校での環境教育

環境への関心度が高い人の改善度・満足度の結果は、以下に示すとおりです。

環境への関心度が高い人においても、全体的な傾向としては全体集計と大きくは変わりません。両者とも改善度と満足度が高い項目は「23 地域や学校での環境教育」となっており、改善はされているが満足度が低い項目として「2 河川や池のきれいさ」、改善度・満足度ともに低い項目として「22 身近で感じる地球温暖化の現状」となっています。

全体集計結果と大きく違う点は、全体集計で満足度が低かった項目において、環境への関心度が高い人の結果ではさらに満足度が下がっている点です。「2 河川や池のきれいさ」では44.5ポイント、「22 身近で感じる地球温暖化の現状」では28.4ポイント、満足度が減少しています。これは、環境への関心度が高いからこそ、求める環境レベルが高く、結果として満足度が低くなっていると考えられます。



改善度の点数を前回（平成 26 年度）の結果と比較すると、ほぼすべての項目で前回の点数を上回っていました。特に「海のきれいさ」「騒音や振動の状況」「快適な歩行・自転車利用の空間」は、前回から大きく点数が上昇していました。

今回の結果だけを見ると、まだ改善されていないと感じている項目もありますが、少なくとも前回よりは改善していると感じていると考えられます。唯一、前回の点数を下回った「公共交通の利便性」については、多いに改善する余地があると考えられます。

項目別評価一覧表（改善度の高い順に並び替え）

項目	改善度		
	今回 (R4)	前回 (H26)	前回との差
安定した水資源の確保	23.8	15.0	8.8
ごみ出しのマナーや分別収集	20.8	20.4	0.4
水の循環利用と節水の推進	20.4	15.3	5.1
ごみの減量・リサイクルの推進	18.7	15.1	3.6
地域や学校での環境教育	17.4	7.0	10.4
快適な歩行・自転車利用の空間	14.5	-1.4	15.9
ゆとりの空間（公園や運動場等）	10.1	3.6	6.5
歴史的・文化的遺産と調したまち並み	9.8	-4.1	13.9
環境活動への参加	9.5	1.4	8.1
悪臭の状況	8.7	-1.6	10.3
自然や緑と調したまち並み	5.6	0.7	4.9
海のきれいさ	5.6	-12.8	18.4
土壌汚染の状況	5.3	-7.4	12.7
河川や池のきれいさ	5.1	-8.1	13.2
空気のきれいさ	3.4	-9.0	12.4
ごみのポイ捨て	0.7	-12.1	12.8
廃棄物の不法投棄	-0.7	-11.4	10.7
海や川等、うるおいのある水辺空間	-3.1	-14.4	11.3
騒音や振動の状況	-3.8	-20.4	16.6
身近な自然とのふれあい	-4.2	-12.2	8.0
野山や森林、田畑等の緑の豊かさ	-10.3	-21.5	11.2
公共交通の利便性	-10.7	-9.7	-1.0
鳥等の動物、虫や魚等身近な生き物の生息数	-20.1	-31.4	11.3
身近で感じる地球温暖化の現状	-28.7	-37.3	8.6

※改善度の評価は、良くなったく +1 > 点、変わらないく 0 > 点、悪くなったく -1 > 点として、各回答の割合に乗じて合計点を求めた。

満足度の点数を前回（平成 26 年度）の結果と比較すると、多くの項目で前回の点数を上回っていました。特に「騒音や振動の状況」「ゆとりの空間（公園や運動場等）」「廃棄物の不法投棄」は、前回から大きく点数が上昇していました。

改善度の結果と同様に、今回の結果だけを見ると、不満を感じている項目もありますが、少なくとも前回よりは満足度が高くなっていると考えられます。その中でも「安定した水資源の確保」「河川や川のきれいさ」「公共交通の利便性」については、前回よりもさらに満足度が低下しているため、今後、改善を図っていく必要があります。

項目別評価一覧表（満足度の高い順に並び替え）

項目	満足度		
	今回 (R4)	前回 (H26)	前回との差
空気のきれいさ	74.2	38.6	35.6
悪臭の状況	63.3	33.2	30.1
地域や学校での環境教育	57.1	42.6	14.5
環境活動への参加	50	48	2.0
歴史的・文化的遺産と調和したまち並み	49.9	33.3	16.6
身近な自然とのふれあい	49.7	25.5	24.2
水の循環利用と節水の推進	48.6	42.6	6.0
土壌汚染の状況	43.7	22.1	21.6
ゆとりの空間（公園や運動場等）	42.9	-0.7	43.6
ごみ出しのマナーや分別収集	38.6	32.1	6.5
ごみの減量・リサイクルの推進	38	35.6	2.4
野山や森林、田畑等の緑の豊かさ	37.4	11.4	26.0
自然や緑と調和したまち並み	36.6	29.7	6.9
安定した水資源の確保	28.8	31.8	-3.0
騒音や振動の状況	26.8	-21	47.8
海や川等、うるおいのある水辺空間	18	3.7	14.3
鳥等の動物、虫や魚等身近な生き物の生息数	12.9	-20	32.9
海のきれいさ	-1.2	-18.6	17.4
快適な歩行・自転車利用の空間	-11.2	-19.3	8.1
廃棄物の不法投棄	-21.5	-61	39.5
河川や池のきれいさ	-28.6	-25.3	-3.3
公共交通の利便性	-47	-37.6	-9.4
身近で感じる地球温暖化の現状	-52.1	-59.7	7.6
ごみのポイ捨て	-52.8	-87.4	34.6

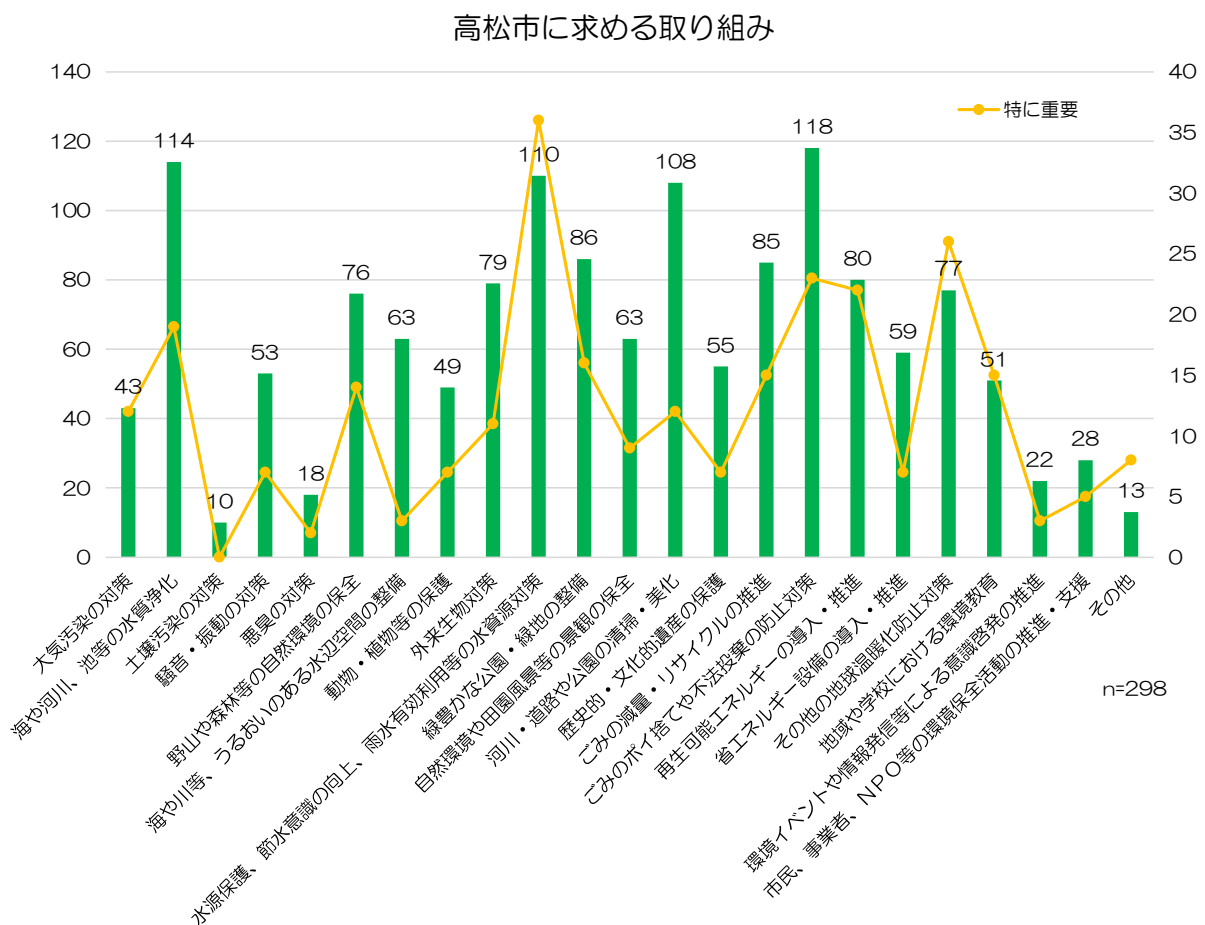
※満足度の評価は、大いに満足〈+2〉点、満足〈+1〉点、不満〈-2〉点として、各回答の割合に乗じて合計点を求めた。

2-4. 市の取り組みについて

【問5】より良い環境づくりを進めるために、高松市は今後どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。次の項目の中から5つ選び、その番号に○をつけてください。その5つの中で特に重要だと思うものを1つ選び、その番号を下記の欄に記入してください。また、1～22以外で、その他に取り組んでほしいものがあれば、23にその内容を記入してください。

本市に求める取り組みとしては、「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止対策（118件）」が最も多く、次いで「海や河川、池等の水質浄化（114件）」「水源保護、節水意識の向上、雨水有効利用等の水資源対策（110件）」が多くなっています。この3項目は、前回（平成26年度）の結果においても上位3項目となっており、前回より継続してこれらに関する取り組みを求める回答が多くなっています。

また、特に重要と考える取り組みについては、「水源保護、節水意識の向上、雨水有効利用等の水資源対策」が最も多く、水資源対策を強く求めていることがうかがえます。



問5の「その他」の回答は下記のとおりです（全13件）。

公共交通機関の利便性向上
道路舗装の劣化が著しい。
上下水道の整備
無秩序な宅地開発、マンション建設の抑制
太陽光発電事業に伴う森林開発の規制
地域活性化、県外からの観光客を増やす。
航空路線を増やす。
歩道・街路樹の整備
自然や穏やかな海を使った観光事業。新しい企業の参入。
カラス、鳩、ムクドリ等のフン害対策
空家対策
ドックランの普及
街灯の整備（南に行けば行くほど街灯が少ない）

年代別に回答を整理すると、「海や河川、池等の水質浄化」「水源保護、水資源対策」「河川・道路や公園の清掃美化」の項目が幅広い年代で回答数が多くなっています。また、20～40代では、「緑豊かな公園・緑地の整備」の回答も多くなっており、子育て世代として公園等の整備を求める要望が多くあると推察されます。

項目	回答数							
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
大気汚染の対策	0	0	1	11	6	7	18	0
海や河川、池等の水質浄化	1	4	7	21	22	27	27	0
土壌汚染の対策	0	0	0	1	1	3	3	0
騒音・振動の対策	1	4	7	14	11	6	6	0
悪臭の対策	0	1	2	6	3	0	0	0
野山や森林等の自然環境の保全	0	4	3	10	10	15	15	0
海や川等、うるおいのある水辺空間の整備	1	4	3	12	7	18	18	0
動物・植物等の保護	1	2	4	12	11	9	9	0
外来生物対策	1	1	4	16	11	15	15	0
水源保護、節水意識の向上、雨水有効利用等の水資源対策	0	4	2	15	23	23	23	1
緑豊かな公園・緑地の整備	1	8	8	18	8	16	16	0
自然環境や田園風景等の景観の保全	0	2	4	8	8	13	13	0
河川・道路や公園の清掃・美化	1	4	8	17	18	23	23	0
歴史的・文化的遺産の保護	1	2	1	9	12	9	9	0
ごみの減量・リサイクルの推進	1	2	7	16	15	16	16	1
ごみのポイ捨てや不法投棄の防止対策	0	3	8	16	21	22	22	1
再生可能エネルギーの導入・推進	0	6	7	14	10	18	18	1
省エネルギー設備の導入・推進	0	2	4	11	9	13	13	1
その他の地球温暖化防止対策	0	1	3	14	12	15	15	0
地域や学校における環境教育	0	0	10	11	8	9	9	0
環境イベントや情報発信等による意識啓発の推進	1	0	0	3	1	6	6	0
市民、事業者、NPO等の環境保全活動の推進・支援	0	0	1	3	3	7	7	0

※各年代の回答数の上位3項目を着色

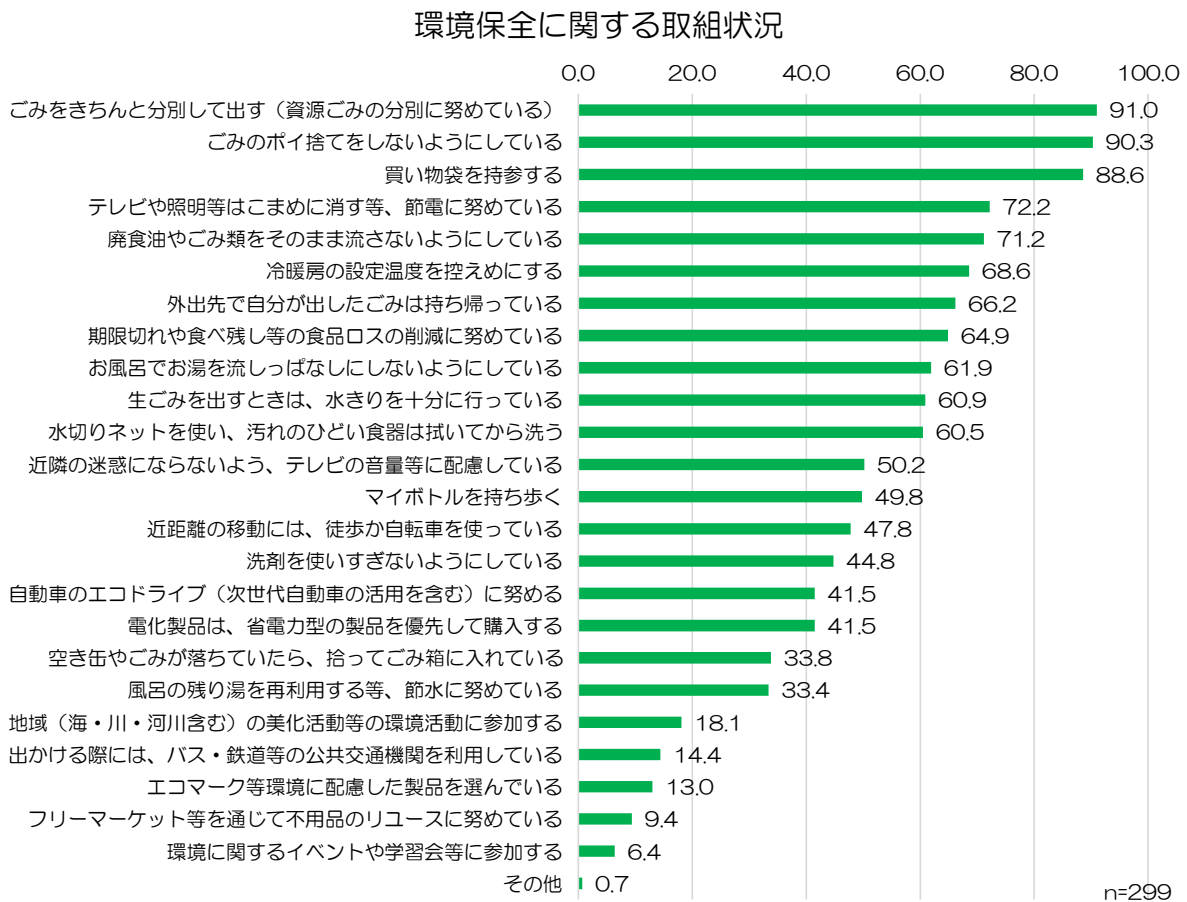
※「10代」と「無回答」は回答数が2件と少ないため、色分け表示から除外

2-5. 環境保全に関する取り組み

【問6】 次の1～24の項目のうち、あなたがすでに取り組んでいることを選んで、あてはまるすべての番号に○をつけてください。また1～24以外で取り組んでいることがございましたら、25 その他に記入ください。

環境保全に関する取組状況としては、「ごみを分別して出す」「ごみのポイ捨てをしない」が90%以上、「買い物袋を持参する」が88.6%と多くの市民が実施しています。

一方、「フリーマーケット等を通じた不要品のリユース」や「環境イベントへの参加」は10%未満に留まっています。



問6の「その他」の回答は下記のとおりです（全4件）。

自宅近くの公園、市道を毎日清掃している。
散歩中に歩道の雑草抜きをしている。
増水時に水路に溜まったごみの清掃をしている。
生ごみ処理機を利用している。

前回（平成 26 年度）の結果と比較すると、「買い物袋を持参する」が前回から 50 ポイント上昇しており、取組率が大きく向上しています。その要因としては、レジ袋有料化等の施策によって、買い物袋を持参する市民が多くなったことが考えられます。

一方、「節水に努めている」「エコマーク等が付いた製品を選んでいる」は取組率が大きく低下しています。特に取組率が大きく低下した「エコマーク等が付いた製品を選んでいる」については、近年、ほとんどの製品にエコマーク等が付いていることから、市民が「エコマーク等が付いている」ということを特別意識せず商品を購入していると考えられます。

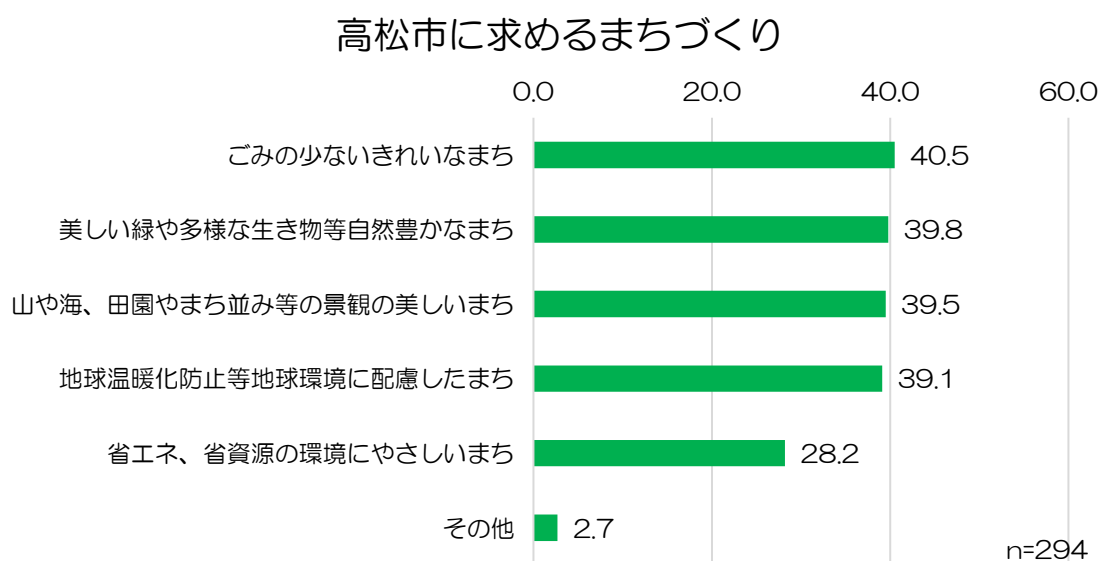


項目	取組率 (%)		
	今回 (R4)	前回 (H26)	前回との差
ごみをきちんと分別して出す（資源ごみの分別に努めている）	91.0	95.4	-4.4
ごみのポイ捨てをしないようにしている	90.3	92.8	-2.5
買い物袋を持参する	88.6	38.6	50.0
テレビや照明等はこまめに消す等、節電に努めている	72.2	75.1	-2.9
廃食油やごみ類をそのまま流さないようにしている	71.2	86	-14.8
冷暖房の設定温度を控えめにする	68.6	75.1	-6.5
外出先で自分が出したごみは持ち帰っている	66.2	82.1	-15.9
期限切れや食べ残し等の食品ロスの削減に努めている	64.9	66.2	-1.3
お風呂でお湯を流しっぱなしにしないようにしている	61.9	71.4	-9.5
生ごみを出すときは、水きりを十分に行っている	60.9	71.8	-10.9
水切りネットを使い、汚れのひどい食器は拭いてから洗う	60.5	67.5	-7.0
近隣の迷惑にならないよう、テレビの音量等に配慮している	50.2	64.2	-14.0
マイボトルを持ち歩く	49.8	—	—
近距離の移動には、徒歩か自転車を使っている	47.8	53.3	-5.5
洗剤を使いすぎないようにしている	44.8	59.8	-15.0
自動車のエコドライブ（次世代自動車の活用を含む）に努める	41.5	57.6	-16.1
電化製品は、省電力型の製品を優先して購入する	41.5	56.6	-15.1
空き缶やごみが落ちていたら、拾ってごみ箱に入れている	33.8	48.5	-14.7
風呂の残り湯を再利用する等、節水に努めている	33.4	55.9	-22.5
地域（海・川・河川含む）の美化活動等の環境活動に参加する	18.1	27.5	-9.4
出かける際には、バス・鉄道等の公共交通機関を利用している	14.4	15.5	-1.1
エコマーク等環境に配慮した製品を選んでいる	13.0	76.4	-63.4
フリーマーケット等を通じて不用品のリユースに努めている	9.4	10.5	-1.1
環境に関するイベントや学習会等に参加する	6.4	4.4	2.0

2-6. 高松市の将来像

【問7】環境の面から、高松市はどんなまちづくりを行っていけばよいでしょうか。
あなたの考えに最も近い番号を、2つまで選んで○をつけてください。

本市に求めるまちづくりとしては、「ごみの少ないきれいなまち」が40.5%と最も多く、次いで「自然豊かなまち」「景観の美しいまち」「地球環境に配慮したまち」がほぼ同じ割合（約40%）となっています。



問7の「その他」の回答は下記のとおりです（全7件）。

交通の利便性が高いまち
水不足のないまち
下水道が整備されたまち
きれいに整備された公園があるまち
子供が安心して遊べるまち
空き家の管理が適切に行われているまち
環境問題に真面目に取り組む人にメリットがあるまち

今回の上位3項目は、前回(平成26年度)の結果においても上位3項目となっており、市民が求めるまちづくりは、これまでと変わらず「ごみが少なくきれいで、自然豊かな景観が美しいまち」であると言えます。

また、地球温暖化防止や省エネ、省資源といった「環境に配慮したやさしいまちづくり」を求めるポイントも前回の結果から大きく上昇していることから、これからのまちづくりは環境に配慮する必要があるということを市民も意識し始めていると考えられます。

項目	回答率 (%)		
	今回 (R4)	前回 (H26)	前回との差
ごみの少ないきれいなまち	40.5	44.3	-3.8
美しい緑や多様な生き物等自然豊かなまち	39.8	37.6	2.2
山や海、田園やまち並み等の景観の美しいまち	39.5	41.7	-2.2
地球温暖化防止等地球環境に配慮したまち	39.1	28.2	10.9
省エネ、省資源の環境にやさしいまち	28.2	21.2	7.0
その他	2.7	1.3	1.4

年代別の回答を見ても、全体の傾向と大きくは変わりません。60代では唯一「地球環境に配慮したまち」が2番目に多い回答数となっていますが、基本的にはどの世代も「ごみが少なくきれいで、自然豊かな景観が美しいまち」を求めていると思われます。

項目	回答数							
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
ごみの少ないきれいなまち	0	1	10	30	21	21	21	0
美しい緑や多様な生き物等自然豊かなまち	1	6	9	17	27	22	35	0
山や海、田園やまち並み等の景観の美しいまち	1	6	8	19	15	26	26	0
地球温暖化防止等地球環境に配慮したまち	0	3	3	17	13	23	23	1
省エネ、省資源の環境にやさしいまち	0	3	5	16	10	16	16	1
その他	0	0	0	2	2	2	2	0

※各年代の回答数の上位2項目を着色

※「10代」と「無回答」は回答数が2件と少ないため、色分け表示から除外

【問8】 将来の高松市の環境は、どうなっていると思いますか。あなたが住み続けたいと思う「高松市のイメージ」を言葉で表してください。簡単なキーワードのよ
うなもので、短い文章で記入してください。

◆自然豊かな美しいまち
海や山が美しいまち
クリーンシティー
高松市の指示に従って各方面に注意すれば緑豊かな水のきれいな町に成ると思います。
美しい瀬戸内海、緑豊かな高松
海、川、池などの水辺の環境を整備して、空気のきれいな町作りが出来ていて住みよい町になっていると思います。
自然豊かな環境の街
きれいな町（クリーンシティ）
きれいな高松市
キレイで鳩やカラスの居ない街
色で言えば青、みどり。
自然や伝統文化、人の心が豊かな高松市
緑、青空、さわやか高松
海 山 空気 きれいで あたたかな心が育まれる高松市
・きれいなまち・みどりゆたか・省エネ
『地球にやさしい高松市』、地元企業（スーパー等の魚、肉のトレー廃止）から簡易包装にする
インフラ整備をし、美しい高松になってほしいです
現在よりも良くなっていることを願う。「美しい街」「市民が自慢できる様な美しい街」になったら良いと思います。
自然が豊かで、まち並みが美しい、住みやすいまち。
きれいな瀬戸内海と緑豊かな田園都市
グリーンでクリーンな町
美しい町、高松 住みよい町
クリーン アンド グリーン
高松の町は美しくきれいな町です
・緑に囲まれた山河・歴史のある町
瀬戸内海の美しい海と自然豊かな山々に囲まれた城下町
山や海と都市部が隣接した、自然豊かなまち
美しい街
美しい街並み

海と山が調和した豊かな自然
緑と海が美しい街
綺麗な街並み、整備された環境
山や海、まち並み等の景観の美しいまち
きれいな町
美しい
緑豊かな環境に優しい都市
環境のきれいな街
◆公園や緑が整備されたまち
美しい町、みどりの多い町
もっと緑のある公園や緑地帯を増やして、無料のパーキングや、海釣り公園など。
街並をきれいにして（緑を多く）、中央公園とお城附近を緑の多い憩いの場に
子供たち（市民）が身近な場所で自然と触れ合える（緑地、公園、海辺、河川など）。楽しめる「まち」
緑のある美しい街並みで歩行者、自転車がゆったりと走れる道路。車優先の道路では無く、皆が散歩できる道路を希望します。
街中での緑化
車無しで行ける広場とか、のんびり出来る公園の有る町、移動図書館が月一でも良いから来る町。老人が楽しめる場所がある町。
緑にあふれた自然環境、人間性が良いと思います。
緑豊かな町
自然環境を良くし、既存の公園が荒れている。もっと手入れをして保善に力を。子供から老人までゆったり出来る空間の整備をお願いします。
緑や公園、水辺の多い高松市
緑がなくなりマンション・家・スーパー、道となり自然がなくなっていくようです
緑の多い自然豊かなまち
緑あふれる環境に優しい街（になってほしい）
緑が多くて明るい街
緑溢れる子どもからお年寄りまで住みやすい場所であってほしい
緑に囲まれたみんなに優しい町
綺麗な街並み
田畑がきちんと手入れされており、きれいな景観を保って、ほっと安心して緑に癒されるような感じ。
◆水がきれいなまち
水が豊かな街
新川は、水が流れ無いほど草木が茂っています。大雨が降ったら水はどこに流れるのか心配です。

河川の整備、側溝の整備されたまち
リサイクル、水資源の確保と再利用
周辺は田園に囲まれています。水田の河川がありますが上流からのゴミ、ペットボトル、空き缶、時には動物の死体が流れてきます。山紫水明の環境を構築できたらと願っています。
川、海のきれいな町
◆空気がきれいなまち
すみきった空気 ”ステキな高松” すてきな夜景 あざやかな緑
空気がきれいで、緑溢れて、環境にやさしいまち
電気自動車などの普及により大気汚染もへり緑豊かなまち
空気がきれい
ガスマスク等を使用しなくても大丈夫なような空気がきれいなまち
◆生き物がたくさんいるまち
自然豊かな街で、日本古来の生き物が生育している場所がある。スローライフが望める人達との交流があるといい。
昔のように川に魚がもどってきてほしい。ホテルがみれる町にしてほしい。
生き物が豊かにいる町（食用の魚なども含めて）、うなぎがたくさんいる環境
◆地球温暖化対策・脱炭素・省エネが進んだまち
自然エネルギー（太陽エネルギー等）を利用した環境に優しい町
地球の温暖化防止を最優先に進めてください。
省エネ、省資源で緑豊かな田園都市
エネルギーを有効に活用したクリーンな町
省エネ省資源のある町づくり
地球にやさしい環境が満ちている高松市
豊かな自然の中で様々な生き物がすんでいます。太陽光発電以外にも再生可能なエネルギーを活用し、地球に優しいまち。
◆ごみが少ないまち
駅周辺のごみポイ捨てをなくして県外から来られた方がきれいな町だと思われるような町
ごみの少ないみどりの多い町で人に会ったらこんにちほと言える町
道路にゴミのないクリーンな街
ポイ捨てのないような町・交通の利便性をよくしてほしい
ごみの少ない町（川、池、海のプラスチックゴミ）
中心部からはわかりませんが、よそから来た人が海とかにゴミを捨てます。特に海に魚釣りに来た人がゴミを放置して帰ります。
・ごみの少ない整備された街・老人にやさしい環境（街並み）
ごみの少ないまち
ゴミ0で、環境にやさしいまち
市民が協力してゴミのない清潔な緑あふれる美しい高松です。

ごみの少ないきれいなまち
ごみの少ない景観の美しい町
行政がちゃんと率先してゴミの管理なり、街の清掃整備をしないとすぐにスラム化していくと思う。空き家や耕作放棄も含めて、金がかかることばかりだけど、行政主導で動いてもらわないと何も変わらないと思う。
◆災害に強いまち
自然災害などで浸水などの被害、水不足に悩まない美しい町
災害のない街
水害対策の強化
降水量に大きく左右されない生活の確保
災害がこれからも少なく、コロナ等の様な世界的に流行する様な病気が少なくなって欲しい。他人にもきちんと接する子供が今より更に増えて常識人の多い、おだやかな環境を・・・維持して欲しいです。
水不足を気にせず暮らせる高松市
水に困らない
自然災害が少なく、子供が楽しく育つ町。
災害も少ない住みやすい街
災害が少ない住みやすい地域で、地球温暖化防止に対処しているまち。
◆都市と自然が共存したまち
地球環境対策と共存する住み良く美しい街、高松
人と環境に優しい高松
無理なく自然にエコ活動が続けられる町
自然が破壊されない。田舎の道がきれいにされるよう
人口、経済、範囲（市街地、宅地等）においてバランスのとれた街、都市と自然の調和
自然環境と経済活動のバランス
適度な都市部と自然が共存しているまちが良いです。
自然との調和
「都市と自然が融合した住みやすい街」、都市：交通の便が良い、買い物がしやすい（駅周辺を充実させる）、自然：海や緑の景観を更にきれいにする
街と自然の共存
田んぼがなくなり無秩序に開発された住宅地が歯抜けのようにどんどん広がり夏の夜の気温が下がらなくなり住みにくい高松市になっている
このままの自然を活用して、程良い観光事業を促進しながら子供からお年寄りまで住み良い環境作り(共有できる空間作り)を希望します。
便利できれいな街並みと豊かな自然の融合
自然の生物と共存する街
環境にやさしい
街と自然がほどよい感じ

環境に十分に配慮し、個人を勝手に優先するのではなく、他人に対して、優しさを持って適切に対応する。
緑と自然で美しい街
都市と自然の調和
環境に配慮しつつも、便利さを失わない住みやすい街
環境にやさしく配慮したまち。
現代社会がこのまま利便性を追求していくと、高松の自然環境はまちがいなく負の方向に向かうと思う。今こそ、市民一人ひとりが、持続性ある環境保全に向かう意識を高めるような対策が必要である。
市民の皆が環境に配慮できるまち
利便性が高いだけでなく、自然環境にも配慮したスマートな街
自然との共生をめざすまち
◆教育・子育てが充実したまち
以前は栗林公園の横に栗林動物園がありました。動物を見るのは小さい子供にとって大事なことだと思います。このごろ動物園の動物の飼育も難しくなっていると思いますが（餌とか費用の問題）山とか森の中に自然に動物を飼っているような場所があればいいなと思います。
自然豊かで子供を育てやすい町
子育てしやすい子供の教育が充実した環境の高松市
子供は宝、子育てできる多面的な取り組みのできる高松
教育と省エネが一番の町
将来は環境教育も進み、人々の環境に対する関心が高まり、意識された行動で、環境は良くなっていると思う。豊かな自然と清潔感のある街
環境について食事と同じくらい一人一人が考えて過ごせるまち
緑豊かで子育てがしやすい街。
健やかな街
◆交通の利便性が高いまち
地域間、町内の交通（小型バス）の運営に力を入れて、老人が楽しめる環境づくり（二酸化炭素排出環境だけでない。）
郊外型が進む、中心部は大イベント出来る場所作り、交通網の充実、無料駐車場
公共交通機関の使いやすさ、周辺部への関与を強める（中心部への集中はこれ以上増やさない）
交通の利便性が悪いので、免許を持っていない者には、生活しにくい。
自転車専用道路の強化と車両の駐車禁止対策の強化
交通機関（公共）路線が非常に少なく自家用車での往来となるので交通事故を含めてマイカーを少なくできる様になれば幸いです。
バス、電車の利用を！！自転車は必ずヘルメットを、マナーにも気を付けよう

<p>車道は定期点検し整備していると思いますが、歩道は工事をしたり塗装がいたんでいる所が多くある。車道と歩道がある所で、歩道を自転車で通る時、道ががたがたしていて通りづらい所が多くある。通学路でもある円座町、旧琴平街 自転車が車道を通っているのをよく見かける。自転車事故につながる。</p>
<p>私は下円座で住んでいますが、朝のラッシュ時、由佐街道は香東中学生徒が横断すると右折車は停車待ち、直進車は一台も動けず約20分程は屋敷の前は車の山、バス通勤の方はイライラしていると思います。</p>
<p>行きたいところに行きやすい高松市</p>
<p>歩道や車道が十分に確保されて安全に通れるようにしてほしい。細道が多い。</p>
<p>自転車も歩行者も（ベビーカー、車椅子等）も安全に通行できる道路（補道）が整っている。</p>
<p>なるべく車を使わなくても良い方法で環境活動に参加することにより良い高松市になると思う。</p>
<p>徒歩・自転車で生活できるエコシティー高松</p>
<p>車と自転車と歩行者との通行を分離して安全に行き来ができる街になってほしい。</p>
<p>豊かな生活をしていくために必要な施設（スーパー、病院、文化施設、銀行、駅など）へのアクセスが容易な町。</p>
<p>交通の安全が確保されている</p>
<p>公園と公共交通を充実して欲しい</p>
<p>良い景観と清潔感があり、公共交通の発達したコンパクトシティ</p>
<p>◆安心安全なまち</p>
<p>私は長年東京生活でした。安心できる美しい町になってほしいです。</p>
<p>誰もが安心して住める高松</p>
<p>・安心、安全（治安が良い!）・若い世代（子供を含む）を大事にする。</p>
<p>昼も夜も安心して散歩できる。騒音が少なくおだやか。</p>
<p>・交通ルールを守り事故の少ない町・今まで以上に思いやりのある町</p>
<p>子供たちが安心して遊べる公園がある。老後ゆっくり散歩できる町でありたい。</p>
<p>子どもが安心して外で自然に触れ合いながら遊べる街</p>
<p>老若男女問わず散歩や屋外に出ることが楽しめる街。</p>
<p>誰もが安心して暮らせる街</p>
<p>防犯の強化など</p>
<p>◆観光客が訪れる魅力的なまち</p>
<p>外国人に取っては綺麗な町バスと最終時間を長くした方がいい。</p>
<p>人を呼べる美しい町</p>
<p>海の都、さんかくお山 おいでまい 海も山も空も食べものも まんでがん美味しい 自然豊かな高松</p>
<p>緑と海とうどん</p>
<p>海に開かれた街、人の訪れる、歩いて楽しい街、琴電の高架も完成し、車、自転車、人も安全で効率の良い移動が実現。</p>

世界から訪れたいと思うような街づくり
歴史保全、環境整備、白砂青松
何時までも変わらず「四国の玄関」と言われる都市。そして、四国を代表する都市。
◆お互いが助け合う優しいまち
人を思いやる市民
年寄りが安心して最後をむかえられる町
年寄りに親しい町づくり
・高齢者、障害者に優しい街作り・貧富の格差に配慮した街作り
思いやりのある高松市
すべてにおいて「共助」豊かな住みよい町。高松市民でありたい。
人間関係を豊かにし近所付き合いのできる優しい環境の街に住みたいです。
空家、空地が増えて、人の手が行き届かない場所が増えてくるように思います。人口も減って、おひとり様が増えると思われるので、人と人とがつながって、協力し合い助け合う、あたたかい高松市であって欲しいと思います。
老人にやさしい町づくり
誰もが住みやすいやさしいまち
人に優しい
高齢者が住みやすい環境
老若男女にやさしい すみやすい街
心温まる人たちが集まり、爽やかで明るい街づくりを心がける。
住み続けたいと思える高松市を簡単に表すなら「真面目な人にやさしい高松市」
高齢者が生きがいを持てるまち
高齢化社会に適合した社会になってほしい。例えば、市町村別に決められているゴミの分別とかも、初めて住む人でもすぐ分かるシステムが構築されているとか…
老若男女全ての方が支え合える地域。子供にとって過ごし易い環境
思いやりと助け合いの街
◆住みやすい、のどかなまち
台風の被害も少ない、瀬戸内海のおだやかなのんびりした美しい町
新しい建物や住宅がどんどん増えて、昔と変わっていくのが寂しい。田んぼや畑を守っていきけるような環境づくり
自然がいっぱいの、いつでも「帰ってきたくなる所」、いつまでも「住んでいたいところ」で、ありつづけてほしい。
静かな環境の町、美しい町が良いです。
のどかで落ち着いた街
マンションが次から次と建ち田園がどんどんなくなっているのが、とても気になる。
住みやすい、安全なまち

<p>年者いても住みやすい災害の少ない高松市は私にとっては良い街だと感謝しております。今後も若い世代に引き続ける様にと願っております。</p>
<p>程よい田舎。</p>
<p>住みやすい町</p>
<p>栄えすぎず田舎すぎないちょうど良い街</p>
<p>住み良い綺麗な町 自慢できる町</p>
<p>おだやか</p>
<p>すごしやすい高松市</p>
<p>田畑を守り、緑豊か。空き家が増えない。古き良きを残したまま環境に配慮した街。遊ぶ場所がある、子どもに優しい街。</p>
<p>住みやすい</p>
<p>田舎都市</p>
<p>ずっと変わらないまち</p>
<p>住みやすい街にするために、木太町住宅街の狭い道路を広くしてほしいです。豊かな自然の海と山を大切にしてほしいです。</p>
<p>◆その他</p>
<p>未使用で放置している田畑の有効活用。</p>
<p>農地の通年活用による環境と食の向上</p>
<p>農業の活性化（地産地消に努める）、田畑を持っている人への補助金</p>
<p>コンパクトシティ。スマートシティ。</p>
<p>多核連携型コンパクト・エコシティ推進計画を推進してください。それと、SDGs 未来都市に選ばれる様、関係各所と連携して行って下さい。</p>
<p>文化的景観を後世に伝える高松</p>
<p>明日の事が解らない時代となって未来は考えられない。</p>
<p>特になし</p>
<p>やったを感じずために、レジ袋有料にしたりしない市であってほしい。環境なんて誰も気にしてない。</p>
<p>市内アーケード商店街全て自転車の乗り入れ禁止とし、休日も監視員を配置する。</p>
<p>郊外では、焼却炉以外での野焼きなどは条例で禁止する。</p>
<p>環境行政が実感できる街高松。</p>
<p>人口が減少することになり、空屋が増える。市の建物（使用してないもの）目につきます。個人住宅より目につきます。他に利用する方法は？</p>
<p>良くて現状維持が精一杯だと思います。「環境保全最優先 無駄な公共事業の無い街 たかまつ」</p>
<p>次世代の人達が少しでも良い環境で生活できるよう頑張してほしいです。お疲れ様です。</p>

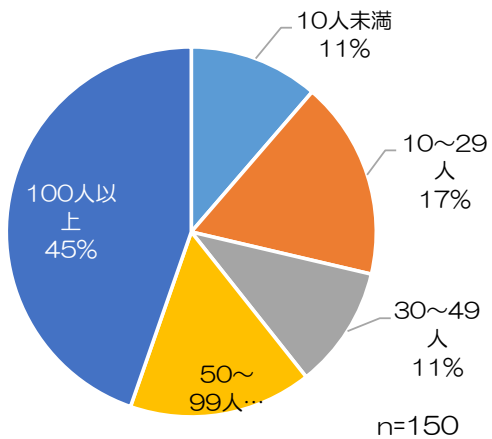
3. 事業者アンケート調査結果

3-1. 属性

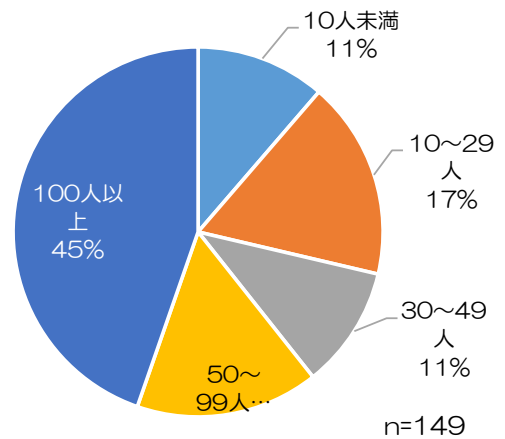
【問1】全従業員数

項目	回答数	
	今回 R4	前回 H26
10人未満	17	59
10~29人	26	44
30~49人	16	16
50~99人	24	11
100人以上	67	17
無回答	0	2
合計	150	149

全従業員数（今回 R4）



全従業員数（前回 H26）

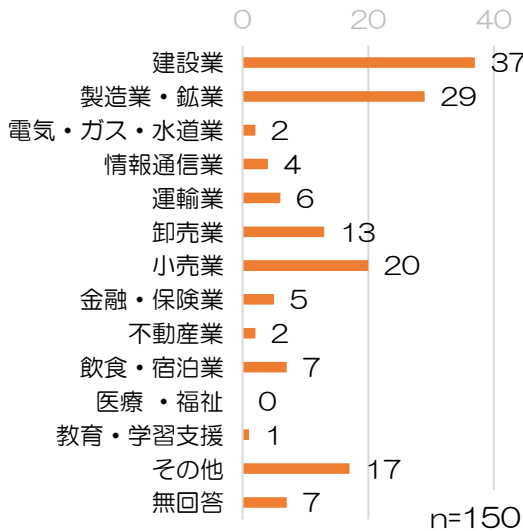


【問2】業種

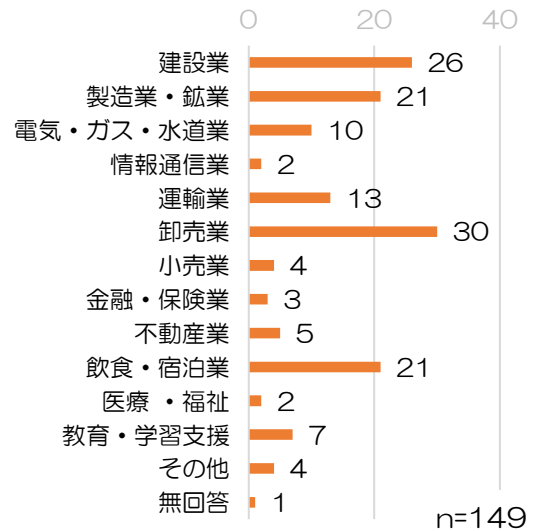
項目	回答数	
	今回 R4	前回 H26
建設業	37	26
製造業・鉱業	29	21
電気・ガス・水道業	2	10
情報通信業	4	2
運輸業	6	13
卸売業	13	30
小売業	20	4
金融・保険業	5	3
不動産業	2	5
飲食・宿泊業	7	21
医療・福祉	0	2
教育・学習支援	1	7
その他	17	4
無回答	7	1
合計	150	149

※前回 26 の建設業には鉱業 1 件を含む。

業種（今回 R4）

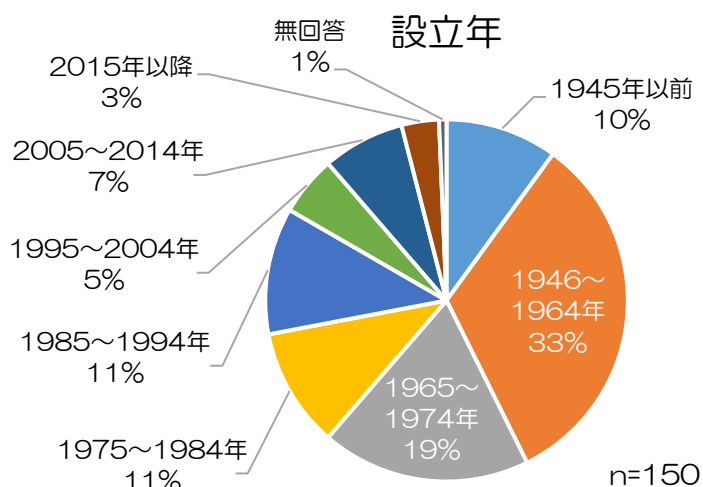


業種（今回 R4）



【問3】 設立年

項目	回答数
1945年以前	15
1946～1964年	49
1965～1974年	28
1975～1984年	16
1985～1994年	17
1995～2004年	8
2005～2014年	11
2015年以降	5
無回答	1
合計	150



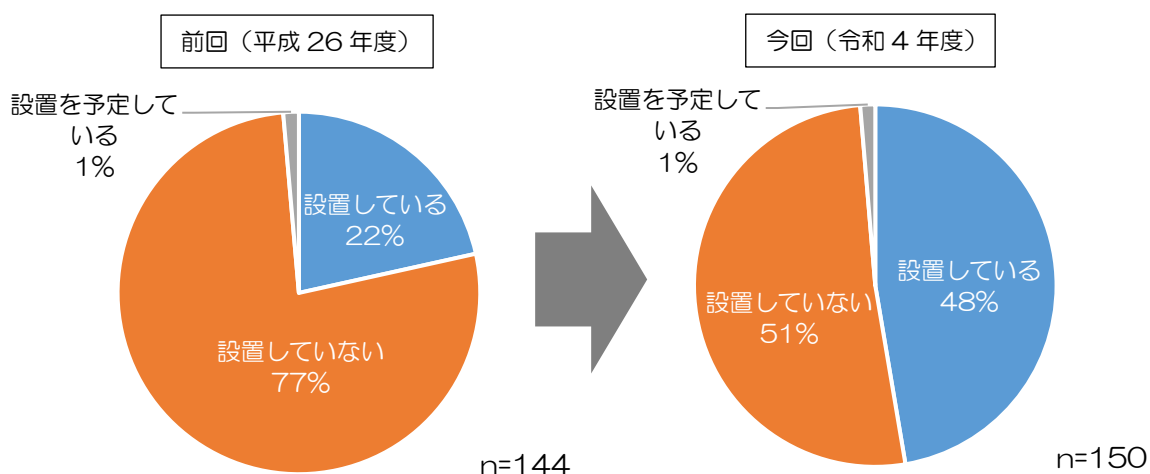
3-2. 環境保全に関する取り組み

【問4】 貴事業所では、環境関連の業務や作業を取り扱う部署が設置されていますか。

- 1 設置している（環境以外の業務を兼ねている場合も含む）
- 2 設置していない
- 3 設置を予定している

環境関連部署の設置状況は、前回（平成 26 年度）から「設置していない」が 77% から 51% に低下し、「設置している」が 22% から 48% に上昇していることから、近年、事業者としても環境関連に取り組む必要性が高まっているものと考えられます。

環境関連部署の設置状況

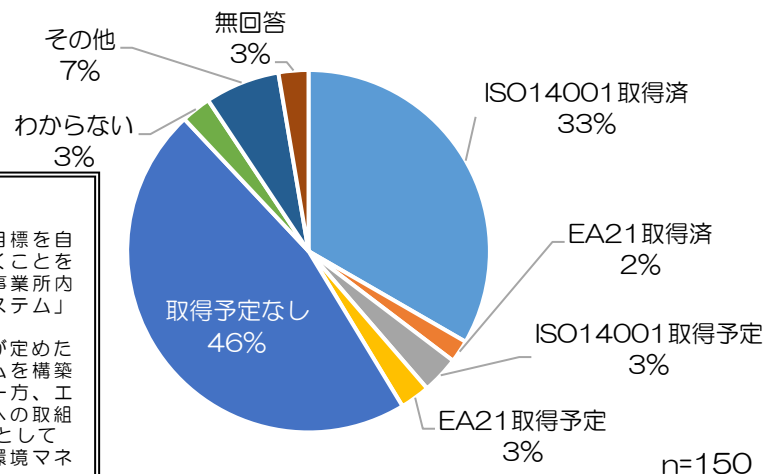


【問5】ISO14001 等環境マネジメントシステムの認証を取得されていますか。

- 1 ISO14001 の認証を取得済である
- 2 エコアクション 21 (EA21) の認証を取得済である
- 3 認証取得していないが、将来的に ISO14001 の認証を取得したい
- 4 認証取得していないが、将来的に EA21 の認証を取得したい
- 5 認証取得しておらず、現在のところ取得は考えていない
- 6 認証取得に関心はあるが、どう取り組んでいいかわからない
- 7 その他

環境マネジメントの取得状況は、「ISO14001 取得済」が 33%、「EA21 取得済」が 3%、これらを「将来的に取得予定」が 5%となっています。しかし、「現在のところ取得は考えていない」が 46%と約半数を占めています。また、その他の回答を見ると「過去に取得していたが、更新していない(取り組みは継続している)」との回答が見受けられます。

環境マネジメントの取得状況



■用語解説

環境マネジメントシステム

事業者が自主的に、環境に関する方針や目標を自ら設定し、その達成に向けて取り組んでいくことを「環境マネジメント」といい、そのための事業所内の体制や手続き等を「環境マネジメントシステム」といいます。

ISO14001は、ISO（国際標準化機構）が定めた国際規格であり、環境マネジメントシステムを構築する際に必要な事項が規定されています。一方、エコアクション21は、中小事業者等の環境への取組を促進するために、ISO14001をベースとして環境省が策定したガイドラインに基づく、環境マネジメントシステムの認証登録制度です。

問5の「その他」の回答は下記のとおりです（全 10 件）。

過去に認証取得していたが、現在は認証取得せず。自主的な活動を継続している。
自己適合宣言
ISO14001 を過去に取得しておりました。現在は ISO14001 を更新していませんが、取組は継続して実施しております。
過去に取得していたが、必要性を感じなくなった（取り組みは続けている）ので更新していない。
過去に取得していたが、必要性を感じなくなった（取り組みは続けている）ので申請していない。
新高松データセンターのみ取得
当事業所としては取得していないが、事業部門として取得している部門の出先が所内にある。
本社および各工場での取得はあるが、本事業所は営業部門のため認証取得はない。
本社は何かしら取得しているかもしれないが手元で確認できず不明
過去に認証取得していたが、現在は認証取得せず。自主的な活動を継続している。

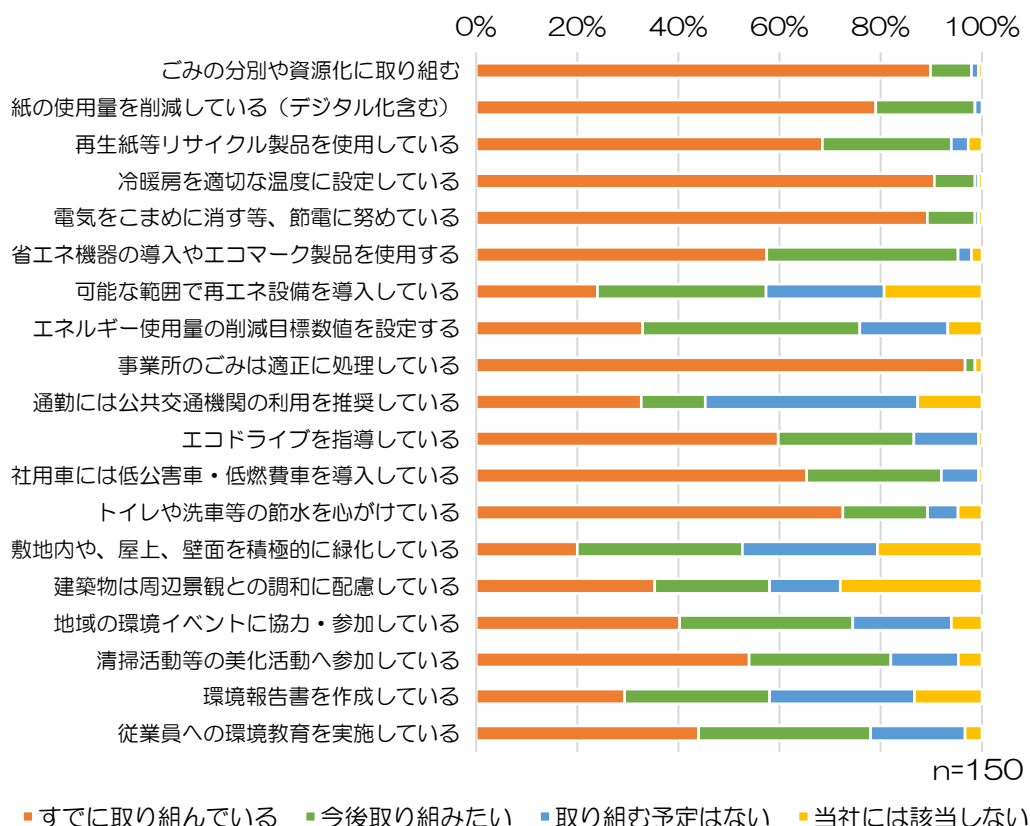
【問6】環境保全に向けた行動について、貴事業所の現状や、今後のお考えにあてはまる番号を1～4の中から1つ選んで○をつけてください。その他に取り組んでいる行動があれば、「その他」に記入してください。

- 1 すでに取り組んでいる
- 2 今後取り組みたい
- 3 取り組む予定はない
- 4 当社には該当しない

環境保全行動の取組状況としては、「ごみの分別や資源化に取り組む」「冷暖房を適切な温度に設定している」「電気をこまめに消す等、節電に努めている」「事業所のごみは適正に処理している」は、約90%以上の事業所が実施しています。

一方、「可能な範囲で再エネ設備を導入している」「敷地内や屋上、壁面を積極的に緑化している」などの取組状況は低い水準となっています。これらの取り組みは地球温暖化防止にも寄与するため、今後の取り組みを促進していく必要があります。

環境保全行動の取組状況



「すでに取り組んでいる」と回答した割合を前回（平成 26 年度）の結果と比較すると、「社用車には低公害車・低燃費車を導入している」「事業所のごみは適正に処理している」「従業員への環境教育を実施している」など、多くの項目で取組率が向上しています。特に「事業所のごみは適正に処理している」は、63.1%から 96.7%と取組率が大きく向上しており、ほとんどの事業者が適正なごみ処理に取り組んでいます。

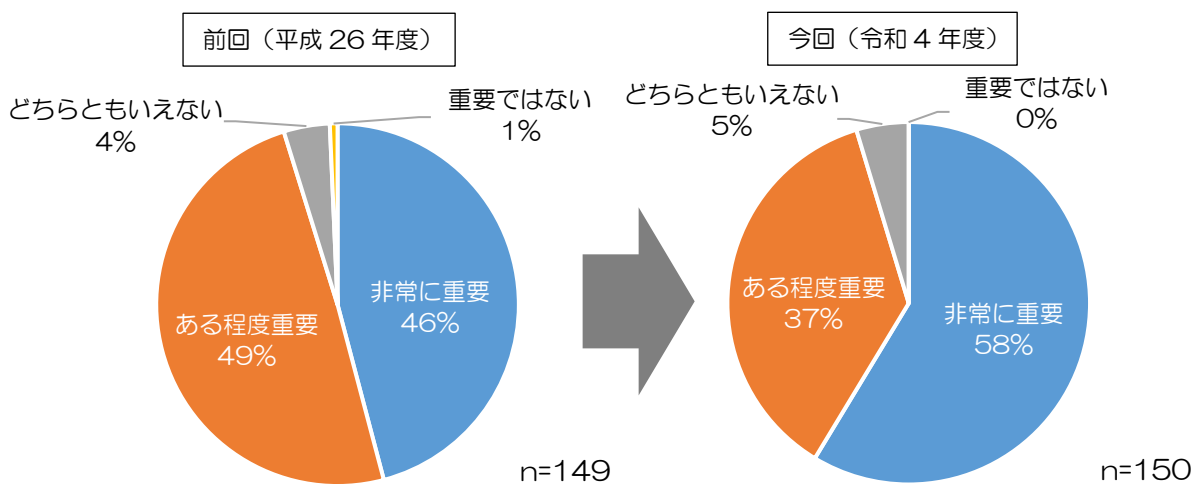
項目	取組率 (%)		
	今回 (R4)	前回 (H26)	前回との差
ごみの分別や資源化に取り組む	89.9	82.6	7.3
紙の使用量を削減している（デジタル化含む）	79.1	83.2	-4.1
再生紙等リサイクル製品を使用している	68.5	64.4	4.1
冷暖房を適切な温度に設定している	90.6	83.9	6.7
電気をこまめに消す等、節電に努めている	89.2	90.6	-1.4
省エネ機器の導入やエコマーク製品を使用する	57.4	47	10.4
可能な範囲で再エネ設備を導入している	24	17.4	6.6
エネルギー使用量の削減目標数値を設定する	32.9	20.8	12.1
事業所のごみは適正に処理している	96.7	63.1	33.6
通勤には公共交通機関の利用を推奨している	32.7	12.8	19.9
エコドライブを指導している	59.7	42.3	17.4
社用車には低公害車・低燃費車を導入している	65.3	26.2	39.1
トイレや洗車等の節水を心がけている	72.5	63.8	8.7
敷地内や、屋上、壁面を積極的に緑化している	20	31.5	-11.5
建築物は周辺景観との調和に配慮している	35.3	24.8	10.5
地域の環境イベントに協力・参加している	40.3	18.8	21.5
清掃活動等の美化活動へ参加している	54	38.9	15.1
環境報告書を作成している	29.3	9.4	19.9
従業員への環境教育を実施している	44	12.8	31.2

【問7】 貴事業所にとって、環境対策へ取り組むことの重要性について、どのようにお考えですか。「非常に重要」「ある程度重要」「どちらともいえない」「重要ではない」のいずれかの欄に○をつけてください。

- 1 非常に重要
- 2 ある程度重要
- 3 どちらともいえない
- 4 重要ではない

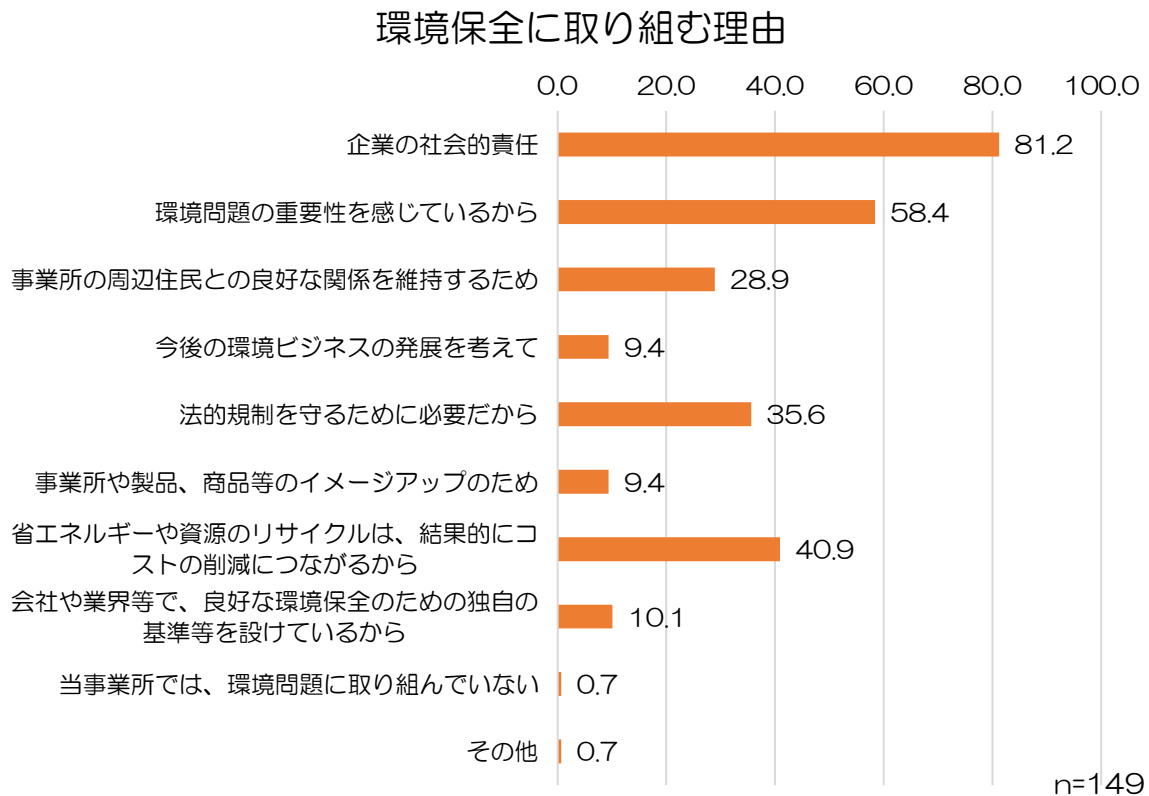
環境対策に取り組むことへの意識については、前回（平成26年度）から「非常に重要」の割合が46%から58%に上昇していました。今回の結果では、「非常に重要」が58%、「ある程度重要」が37%と、95%の事業者が「重要」と認識しています。「重要ではない」と回答した事業者はいませんでした。

環境対策に取り組むことへの意識



【問8】環境保全に向けた取組みに当たり、貴事業所の考えに最も近い番号を、3つまで選んで○をつけてください。また、1～9にあてはまらない考えがあれば、「10 その他」に記入してください。

環境保全に取り組む理由としては、「企業の社会的責任」が81.2%と最も多く、次いで「環境問題の重要性を感じているから」が58.4%、「省エネルギーや資源のリサイクルは、結果的にコストの削減につながるから」が40.9%となっています。



前回（平成 26 年度）の結果と比較すると、環境保全に取り組む理由として「企業の社会的責任」と回答した割合が 81.2%と前回よりも 23.5 ポイント上昇しており、企業の社会的責任をより強く感じるようになったことがうかがえます。

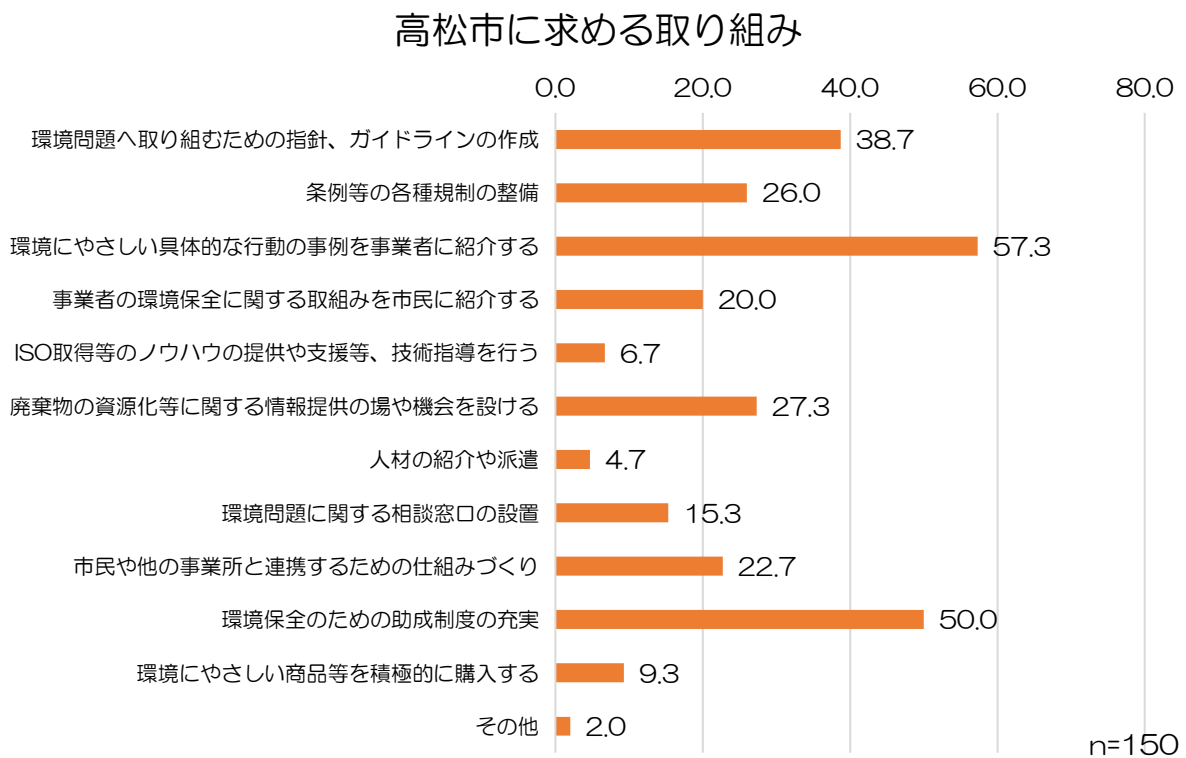
一方で、「事業所の周辺住民との良好な関係を維持するため」と回答した割合は 12 ポイント低下しており、事業者と住民との関係性が以前よりも希薄になってきていることなどが考えられます。

項目	回答率（％）		
	今回 (R4)	前回 (H26)	前回との差
企業の社会的責任	81.2	57.7	23.5
環境問題の重要性を感じているから	58.4	59.1	-0.7
事業所の周辺住民との良好な関係を維持するため	28.9	40.9	-12.0
今後の環境ビジネスの発展を考えて	9.4	12.1	-2.7
法的規制を守るために必要だから	35.6	24.8	10.8
事業所や製品、商品等のイメージアップのため	9.4	11.4	-2.0
省エネルギーや資源のリサイクルは、結果的にコストの削減につながるから	40.9	51.0	-10.1
会社や業界等で、良好な環境保全のための独自の基準等を設けているから	10.1	3.4	6.7
当事業所では、環境問題に取り組んでいない	0.7	3.4	-2.7
その他	0.7	1.3	-0.6

3-3. 市の取り組みについて

【問9】環境保全に向けた取り組みを進める上で、高松市は今後どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。次の項目から3つ選び、番号に○をつけてください。

本市に求める取り組みとしては、「環境にやさしい具体的な行動の事例を事業者を紹介する」が57.3%と最も多く、次いで「環境保全のための助成制度の充実」が50.0%、「環境問題へ取り組むための指針、ガイドラインの作成」が38.7%となっています。これらの3項目は、平成26年度に実施した前回アンケート調査でも上位3項目となっており、継続して「事例紹介」「助成制度の充実」「指針、ガイドラインの作成」を求める声が多いことがうかがえます。



問9の「その他」の回答は下記のとおりです（全2件）。

親子で参加できるようなイベントや、世界の子供たちをつなぐ Zoom イベントなど。
 国の価値観がわかって刺激になる。

わからない

前回（平成 26 年度）の結果と比較すると、本市に求める取り組みとして「市民や他の事業所と連携するための仕組みづくり」と回答した割合が 12.6 ポイント上昇しています。これは【問 8】の結果にも関連することですが、以前よりも事業者と住民の関係性が希薄になってきていると考えられ、事業者としてもこれを改善したいという思いが感じられる結果となっています。

また、「環境保全のための助成制度の充実」は前回も高い割合でしたが、今回はさらに 7.7 ポイント上昇しており、環境保全に取り組むためには、財源を確保するための助成制度の充実の要望が高まっていると考えられます。

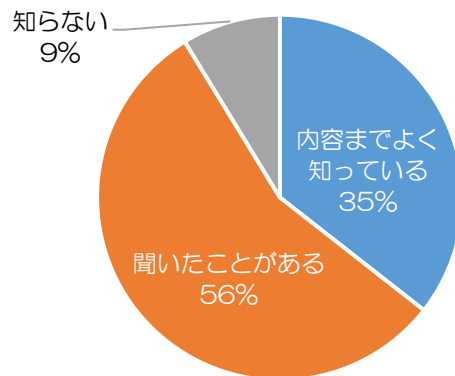
項 目	回答率（％）		
	今回 (R4)	前回 (H26)	前回との差
環境問題へ取り組むための指針、ガイドラインの作成	38.7	45.6	-6.9
条例等の各種規制の整備	26.0	16.1	9.9
環境にやさしい具体的な行動の事例を事業者を紹介する	57.3	53.7	3.6
事業者の環境保全に関する取り組みを市民を紹介する	20.0	18.1	1.9
ISO取得等のノウハウの提供や支援等、技術指導を行う	6.7	11.4	-4.7
廃棄物の資源化等に関する情報提供の場や機会を設ける	27.3	30.2	-2.9
人材の紹介や派遣	4.7	8.1	-3.4
環境問題に関する相談窓口の設置	15.3	18.1	-2.8
市民や他の事業所と連携するための仕組みづくり	22.7	10.1	12.6
環境保全のための助成制度の充実	50.0	42.3	7.7
環境にやさしい商品等を積極的に購入する	9.3	10.1	-0.8
その他	2	1.3	0.7

【問 10】 貴事業所は、令和2年 10 月 26 日、臨時国会の所信表明演説において、菅内閣総理大臣が「2050 年カーボンニュートラル」を宣言したことを知っていますか。あてはまるものを1つ選んで○をつけてください。

- 1 内容までよく知っている
- 2 聞いたことがある
- 3 知らない

日本が「2050 年カーボンニュートラル」宣言をしたことについては、「内容までよく知っている」が 35%、「聞いたことがある」が 56%と、91%の事業者が認知しています。しかし、「内容までよく知っている」と回答した事業者が 35%とやや少ないため、今後は事業者を巻き込んだ積極的な情報発信が望まれます。

2050年カーボンニュートラル宣言の認知度



n=149

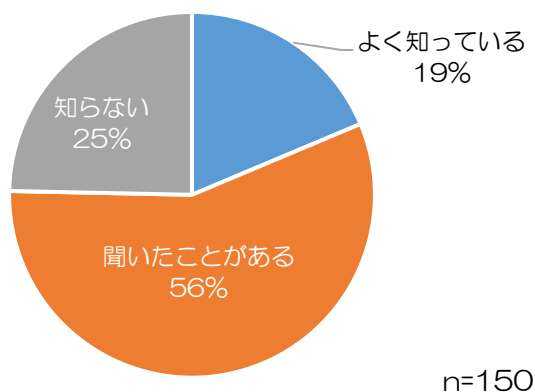
【問 11】 貴事業所は、本市が令和2年 12 月 3 日に、2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることを旨とする「ゼロカーボンシティ」を宣言したことを知っていますか。あてはまるものを1つ選んで、○をつけてください。

- 1 よく知っている
- 2 聞いたことがある
- 3 知らない

本市が「ゼロカーボンシティ」宣言をしたことについては、「よく知っている」が 19%、「聞いたことがある」が 56%と、75%の事業者が認知しています。

しかし、「よく知っている」は 19%に留まり、「知らない」が 25%となっているため、問 10 と同様に積極的に情報発信を行っていくとともに、事業者が「自分事」として捉えてもらえるように丁寧な説明を行っていく必要があります。

高松市ゼロカーボンシティ宣言の認知度

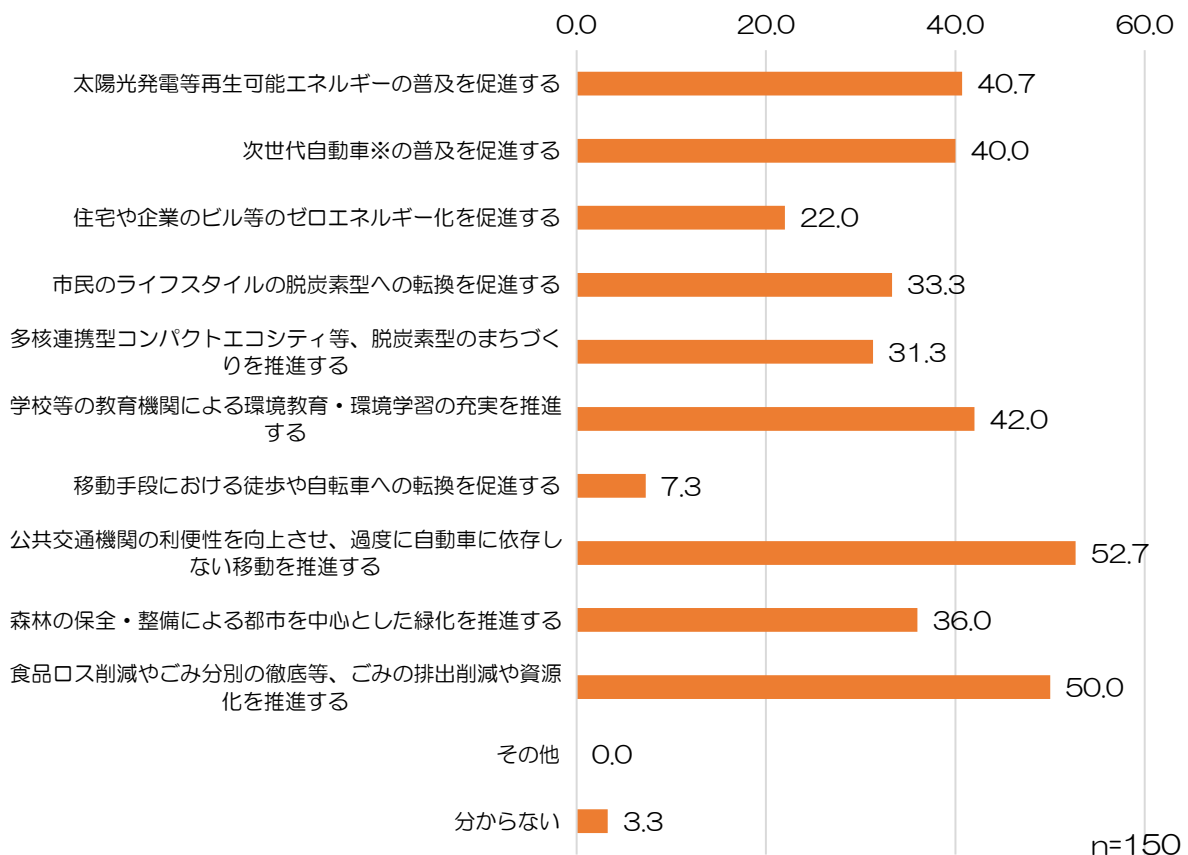


【問 12】ゼロカーボンシティ実現のために、市はどのようなことを優先的に取り組むべきだと思いますか。あてはまるものをすべて選び、番号に○をつけてください。

本市がゼロカーボンシティ実現のために取り組むべきこととしては、「公共交通機関の利便性を向上させ、過度に自動車に依存しない移動を推進する」が52.7%と最も多く、次いで「食品ロス削減やごみ分別の徹底等、ごみの排出削減や資源化を推進する」が50.0%、「学校等の教育機関による環境教育・環境学習の充実を推進する」が42.0%となっています。

公共交通機関の利便性の向上や太陽光発電等の再生可能エネルギーの普及促進など、ハード面での取り組みに加えて、普及啓発や環境教育などのソフト面での取り組みを求める声が多くなっています。

高松市がゼロカーボンシティ実現のために取り組むべきこと



4. アンケート調査結果のまとめ

4-1. 市民アンケート調査結果のまとめ

(1) 環境に関する意識や取組状況

環境についての関心度では、すべての項目において、関心度（「大いに関心がある」と「関心がある」の割合）が80%を超えており、環境について高い関心があることがうかがえます。特に「美しい景観」「緑の空間」などの都市環境に強い関心が持たれています。また、「ごみの減量・資源化（食品ロスを含む）」や、地球規模で対策が求められている「地球温暖化の防止」なども高い関心が持たれています。

環境保全に関する取組状況としては、「ごみを分別して出す」「ごみのポイ捨てをしない」が90%以上と多くの市民が実施しており、関心度の高さが日常の行動につながっていると考えられます。また、「買い物袋を持参する」は、平成26年度に実施した前回アンケートでは38.6%の実施率でしたが、今回は88.6%と大幅な実施率の向上が見られます。

(2) 身近な環境の改善度・満足度

本市が環境基本計画を策定した平成27（2015）年頃からの居住地区周辺の環境の変化を問う設問では、「空気のきれいさ」「悪臭の状況」「身近な自然とのふれあい」「地域や学校での環境教育」などの項目で改善度・満足度ともに高くなっています。

一方で、「河川や池のきれいさ」「快適な歩行・自転車利用の空間」「ごみのポイ捨て」「廃棄物の不法投棄」は改善が進んでいるものの、満足度としては低い状態です。

さらに、「公共交通の利便性」「身近で感じる地球温暖化の現状」は改善度・満足度ともに低い状態であり、今後、改善が望まれる項目となっています。特に「地球温暖化」については市民の関心度も高くなっているため、より一層の取り組みの強化が必要と考えられます。

(3) 環境に関する課題、市への要望等

市民が本市に求める取り組みとしては、「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止対策」が最も多くなっています。また、市民が特に重要と考える取り組みについては、「水源保護、節水意識の向上、雨水有効利用等の水資源対策」が最も多く、水資源対策を強く求めていることがうかがえます。これは、本市が年間を通じて降水量が少なく、しばしば渇水に見舞われることから、将来の水資源の確保に危機感を感じているものと考えられます。

本市に求めるまちづくりとしては、「ごみの少ないきれいなまち」が最も多く、本市に求める取り組みで最も回答数が多かった「ごみのポイ捨てや不法投棄の防止対策」と整合する結果となっています。また、「自然豊かなまち」「景観の美しいまち」「地球環境に配慮したまち」も回答数が多くなっており、これらはほぼ同じ割合となっていることから、自然と調和したまちづくりに高い関心があることがうかがえます。

(4) 高松市の環境の将来像

本市の環境の将来像について、市民に自由意見を募ったところ、223 件の意見が寄せられました。これらの意見をキーワードで分類すると、下表の 16 分類に整理されます。この中で最も意見が多かったのは「自然豊かな美しいまち」であり、次に「都市と自然が共存したまち」でした。これらの意見からは、今ある「自然豊かな美しいまち」を大切に守りながら、「都市と自然が共存したまち」を実現したまちづくりをしていってほしいという思いが読み取れます。

高松市の環境の将来像（全 223 件）	
◆自然豊かな美しいまち（36 件）	◆都市と自然が共存したまち（25 件）
◆公園や緑が整備されたまち（19 件）	◆教育・子育てが充実したまち（9 件）
◆水がきれいなまち（6 件）	◆交通の利便性が高いまち（19 件）
◆空気がきれいなまち（5 件）	◆安心安全なまち（10 件）
◆生き物がたくさんいるまち（3 件）	◆観光客が訪れる魅力的なまち（8 件）
◆地球温暖化対策・脱炭素・省エネが進んだまち（7 件）	◆お互いが助け合う優しいまち（19 件）
◆ごみが少ないまち（13 件）	◆住みやすい、のどかなまち（19 件）
◆災害に強いまち（10 件）	◆その他（15 件）

4-2. 事業者アンケート調査結果のまとめ

(1) 環境に関する意識や取組状況

環境対策に取り組むことの重要性を問う設問では、「非常に重要」が 58%、「ある程度重要」が 37%と、95%の事業者が「重要」と認識しています。その理由としては、「企業の社会的責任」が 81.2%と最も多くなっており、これは前回アンケート調査（平成 26 年度）の 57.2%から大きく上昇しており、企業の社会的責任をより強く感じるようになったことがうかがえます。

このような背景から、「ごみの分別や資源化に取り組む」「冷暖房を適切な温度に設定している」「電気をこまめに消す等、節電に努めている」「事業所のごみは適正に処理している」などの取り組みは、約 90%以上の事業所が実施しています。しかし、その一方で、「可能な範囲で再エネ設備を導入している」「敷地内や屋上、壁面を積極的に緑化している」などの取組状況は低い水準となっています。これらの取り組みは地球温暖化防止にも寄与するため、今後の取り組みを促進していく必要があります。

(2) 地球温暖化防止に向けて

地球温暖化防止に向けた「高松市ゼロカーボンシティ宣言」は75%の事業者が認知していますが、「よく知っている」は19%に留まり、「知らない」に関しては25%となっています。今後も積極的に情報発信を行っていくとともに、事業者が「自分事」として捉えてもらえるように丁寧な説明を行っていく必要があります。

本市がゼロカーボンシティ実現のために取り組むべきこととしては、「公共交通機関の利便性を向上させ、過度に自動車に依存しない移動を推進する」が52.7%と最も多く、次いで「食品ロス削減やごみ分別の徹底等、ごみの排出削減や資源化を推進する」が50.0%、「学校等の教育機関による環境教育・環境学習の充実を推進する」が42.0%となっています。公共交通機関の利便性の向上や太陽光発電等の再生可能エネルギーの普及促進などのハード面での取り組みに加えて、普及啓発や環境教育などのソフト面での取り組みを求める声が多くなっています。

(3) 環境に関する課題、市への要望等

事業者が本市に求める取り組みとしては、「環境にやさしい具体的な行動の事例を事業者で紹介する」が57.3%と最も多く、次いで「環境保全のための助成制度の充実」が50.0%、「環境問題へ取り組むための指針、ガイドラインの作成」が38.7%となっています。

これらの3項目は、前回アンケート調査（平成26年度）でも上位3位を占めており、継続して「事例紹介」「助成制度の充実」「指針、ガイドラインの作成」を求める声が多いことがうかがえます。